

職員(調劑員及月俸拾圓以下ノ雇員ヲ除ク)ノ進退黜陟ハ之ヲ知事ニ具申ス可シ
臨時ニ起リタル事項ハ知事ノ許可ヲ得テ後ニ之ヲ處分スヘシ

第四條 院長ハ管内ノ衛生並ニ病院ノ狀況ヲ監察シ改良スヘキ必要アリト認ムルハ
ハ案ヲ具テ知事ニ提出ス可シ

第五條 醫科長ハ院長ノ指揮ヲ承ケ各科ノ醫務ヲ整理シ患者ノ治療ヲ擔任ス院長事
故アルハ首坐ノ者其事務ヲ代理ス

第六條 院醫ハ院長及醫科長ノ指揮ヲ承ケ各科ノ醫務及ヒ患者ノ診斷治療ヲ分擔ス

第七條 院醫補ハ院醫ヲ補佐シ各科ノ醫務ヲ分擔ス

第八條 藥局長ハ院長ノ指揮ヲ承ケ藥局ノ事務ヲ主宰シ藥物試驗ヲ擔任ス

第九條 藥局副長ハ職掌藥局長ニ亞ク

第十條 調劑員ハ藥局長及藥局副長ノ指揮ヲ承ケ藥劑配合ヲ分擔ス

第十一條 書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ従事ス

○縣令第二十一號

明治二十二年三月二十六日

娼妓梅毒検査規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但本年四月一日ヨリ施行ス

娼妓梅毒検査規則

第一條 貸坐敷所在ノ地ニハ梅毒検査處ヲ置キ醫員ヲシテ毎木曜日娼妓ノ梅毒ヲ檢

査セシム但梅毒潜伏ノ疑アルモノハ臨時検査スルヲアルヘシ

第二條 新ニ娼妓ノ免許ヲ受ケタルモノハ渡世地ノ梅毒検査所ニ於テ検査ヲ受ケ梅毒
検査証ヲ受取ルヘシ検査ヲ受ケスシテ就業スルヲ許サス

娼妓ノ疾病事故ノ爲メ七日以上休業シテ就業スルハ亦全シ

第三條 検査ハ必ス検査室ニ於テシ醫員及看護人ノ外其室内ニ入ルヲ許サス

第四條 検査當日娼妓他ノ疾病ニ罹リ検査處ニ出頭シ能ハサルハ醫員ハ取締人ト
共ニ其所在ニ就テ検査スヘシ

第五條 娼妓梅毒ノ検査ヲ受ケタルトキハ所持ノ検査証ニ醫員ノ證印ヲ受ケヘシ

第六條 第一條第二條第四條ノ検査ニ於テ梅毒ニ罹リタルモノト認ムルハ醫員ハ
梅毒院ニ入院治療ヲ命シ梅毒院ノ設ケナキ地ハ貸坐敷内ニ於テ治療スルモノトス
但本條ノ場合ニ於テハ醫員ヨリ所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

第七條 検査所ニハ主務官警察官吏又ハ他ノ醫員ヲ派遣シ監視セシムルヲアルヘシ

第八條 検査ノ時限順序其他検査上必要ナル細則ハ検査處ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認
可ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

○縣令第二十二號 明治二十二年三月二十六日
娼妓梅毒院規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
但本年四月一日ヨリ施行ス

娼妓梅毒院規則

- 第一條 貸坐敷所在ノ地ニハ梅毒院ヲ置キ娼妓ノ梅毒ニ罹リタル者ヲ入院治療セシム
- 第二條 梅毒院ノ設ケナキ地ハ貸坐敷内ニ於テ別室ヲ區畫シ治療セシムルモノトス
- 第三條 入院患者ノ治療及調劑ハ梅毒検査醫ニ於テ之ヲ擔任スルモノトス
- 第三條 入院患者アルハ醫員ハ之ヲ病室ニ配置シ病症ノ輕重ニ依リナルヘク患者ヲ區別スルヲ要ス
- 第四條 娼妓ノ梅毒治療費ハ總テ梅毒院ヨリ支辨スルモノトス但入院中ノ賄料ハ本文ノ限リニアラス
- 第五條 入院患者危篤ニ臨ミタルハ其出稼貸坐敷主ニ通報スヘシ
- 第六條 入院中ノ娼妓治療退院ヲ命スルハ退院證ヲ交付シ本人ヲ出稼貸坐敷主ニ引渡シ其旨所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ
- 娼妓死亡シタルハ出稼貸坐敷主及所轄警察署又ハ警察分署ニ通報シ其死屍ヲ貸坐敷主ニ引渡スヘシ
- 第七條 娼妓入院中其父兄親族又ハ出稼貸坐敷主ニ於テ面會ヲ請フトキハ掛員立會ノ上之ヲ許ス其時限ハ午前八時ヨリ午後三時マテトス但急用アルハ本條ノ時限外ト雖許スコトアルヘシ

- 第八條 醫員及掛員ト雖モ回診又ハ要用アルトキノ外病室内ニ入ルヘカラス
- 第九條 娼妓入院中ハ藥用攝生食事入浴等凡テ醫員ノ命ニ從ヒ所定ノ時間ニ於テシ醫員ノ許可ナキ食物ハ一切喫食スルヲ許サス
- 第十條 第一條第二項ニ依リ貸坐敷内ニ於テ治療スルトキモ此規則ニ準據スヘシ
- 第十一條 病室取締ニ關シ必要ナル細則ハ梅毒院ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

○縣令第四十五號 明治二十二年五月十八日

產婆取締規則ヲ定ムルト左ノ如シ 但明治十四年(一月)甲第六號布達產婆取締規則ハ廢止ス

產婆取締規則

- 第一條 產婆ハ內務省ノ開業免狀若クハ本縣免許證ヲ有スル者ニ限ル但此規則發布以前ニ下附シタル產婆營業免許證札ハ尙其効アリトス
- 第二條 產婆ハ開業免狀又ハ免許證若クハ營業免許證札ヲ貸附讓與スルヲ許サス
- 第三條 產婆ハ平常藥劑ヲ授與シ又ハ異常產ニ臨ミ器械ヲ應用スルヲ許サス但救急ノ場合ニ於テ無害ノ藥劑ヲ投スルハ此限リニアラス
- 第四條 本縣免許證又ハ營業免許證札ヲ有スル產婆其業ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アルハ其業ヲ停止若クハ禁止スルヲアルヘシ但其事免許證ヲ得ル前ニアリト雖

凡本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第五條 本則第四條ヲ除キ第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下
ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第四十六號 明治二十二年五月十九日

產婆免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

產婆免許規則

第一條 內務省ノ產婆開業免狀ヲ得ントスル者ハ縣立產婆講習所ニ於テ左ノ科目ヲ
修業シ其履歷書ヲ添ヘ直ニ縣廳ニ又ハ之ニ同シキ科目ノ修業證ヲ有スル者ハ其證
ヲ添ヘ毎年二月十五日限り市町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出試驗ヲ
受クヘシ

- 一 人身解剖學大意
- 二 人身生理學大意
- 三 平常妊娠及順產論
- 四 正規ノ產褥及哺乳論
- 五 妊娠及分娩經過中ノ異常論
- 六 產褥期及哺乳期中ニ起ル障害ノ論
- 七 實地

第二條

本縣免許證ヲ得ントスルモノハ產婆組合又ハ縣廳ノ認可ヲ受ケタル私立產
婆講習所ニ於テ左ノ科目ヲ修業シ其證ヲ受ケ願書ニ添付シ市町村長ノ與書ヲ受ケ
郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

- 一 婦人生殖器ノ位置構造及生理功用ノ大意
- 二 妊娠ノ徵候
- 三 分娩期
- 四 正規產褥及嬰兒看護ノ法大意
- 五 胎兒異常位置診斷法大意
- 六 產婦種々ノ疾病徵候
- 七 實地

第三條 第一條及第二條ノ出願者ハ年齡滿二十年以上ノ女子ニシテ盲聾啞等ノ疾患
ナキモノニ限ル

第四條 內務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ損毀亡失シ又ハ氏ノ變換ニ依リ名書換
ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記シ市町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願
出ヘシ

第五條 內務省ノ開業免狀ヲ有スルモノ他府縣へ轉籍寄留スルトキハ市町村役場及
郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但本縣免許證ヲ有スルモノ本條ノ場合ニ於テハ其證

ヲ返納スヘシ

第六條 内務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ有スルモノニシテ他ノ郡市町村へ轉住スルトキハ前條ノ手續ニ依リ届出ヘシ但内務省ノ開業免狀ヲ有スルモノニシテ他府縣ヨリ轉籍寄留シ開業セントスルトキハ免狀其寫ヲ添ヘ本條ノ手續ニ依ルヘシ

第七條 内務省ノ開業免狀又ハ本縣免許證ヲ有スルモノ廢業若クハ死亡シタルハ市町村役場郡役所ヲ經テ其免狀若クハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條 第一條ノ試驗ハ毎年三月之ヲ舉行スルモノトス

第九條 第一條ノ試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 人身解剖學大意
- 二 人身生理學大意
- 三 平常妊娠及順産論
- 四 正規ノ産褥及哺乳論
- 五 妊娠及分娩經過中ノ異常論
- 六 産褥期及哺乳期中ニ起ル障害ノ論
- 七 實地

第十條 試驗問題ハ一科一問宛トシ其應答筆記ノ時期ハ毎題二時間トス但實地ハ口答トス

○縣令第四十七號

明治二十二年五月十九日

産婆組合設置規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

産婆組合設置規則

第一條 産婆ハ業術ヲ研究シ風儀ヲ匡正センカ爲メ組合ヲ設ク可シ

第二條 産婆組合ニ於テハ少ナクトモ一ケ年四回以上醫師若クハ内務省免許ノ産婆ニ講師ヲ囑托シ左ニ掲グル科目ノ研究ヲナスヘシ但講師ヲ囑托セントスルトキハ市長又ハ郡長ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 婦人生殖器ノ位置構造及生理功用ノ大意
- 二 妊娠ノ徴候
- 三 分娩期
- 四 正規産褥及嬰兒看護ノ法大意
- 五 胎兒異常位置診断法ノ大意
- 六 產婦種々ノ疾病徴候
- 七 實地

第三條 産婆組合ニ於テ前條科目ノ研究ヲ卒ヘタルモノニハ其證ヲ交付スヘシ

第四條 第二條研究用ノ書籍ハ組合ニ於テ適宜選用スヘシ

第五條 産婆組合ノ區畫ハ市長又ハ郡長ニ於テ之ヲ指定スルモノトス

第六條 組合區内居住ノ産婆ハ組合ニ洩レ又ハ正當ノ事故ナクシテ研究ニ欠席スルコトヲ得ス

第七條 將來産婆ヲ營マントスルモノニシテ組合ニ入ランコトヲ請フトキハ組合ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 産婆組合ニ於テハ其業務ニ關スル規則及令達ヲ普及シ之ヲ研究スルノ方法ヲ設クヘシ

第九條 産婆組合ニ於テハ左ノ各項ヲ標準トシ細目ノ規約ヲ設ケ郡役所又ハ市役所ヲ經由シ縣廳ノ承認ヲ受クヘシ但規約ヲ變更増補スルキモ亦同シ

- 一 業務ノ研究ニ關スルコト
- 二 風儀ヲ匡正シ業務ヲ保護スルコト
- 三 妊産婦ニ對スルコト

- 四 醫師及同業者ニ對スルコト
- 五 組合經費支辨法ノコト

第十條 組合ノ經費ハ組合ニ於テ負擔スヘシ

○縣令第六十七號 明治二十二年十一月十二日

醫師藥種商製藥ヲ除クノ外格魯兒酸加留謨(鹽素酸加留謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スル者ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ所轄警察署

廿三年縣令第九號ヲ以テ更正

又ハ分署ニ届出認可ヲ受ク可シ但シ警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

書式

格魯兒酸加留謨

斤量

右ハ(醫業)(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何(府縣)何(市郡區)何(町村)番地
族籍

現住所何(府縣)何(市郡區)何(町村)番地
(買主)(受主) 氏 名 實印 年齡

何(府縣)何(市郡區)何(町村)番地族籍
(賣主)(授主) 氏 名 實印 年齡

年月日
警察署長(又ハ分署長)宛

○縣令第四號

明治二十三年二月五日

藥種商並製藥者取締細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但本年三月一日ヨリ施行ス

藥種商並製藥者取締細則

- 第一條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ得ントスルモノハ族籍氏名年齢等ヲ詳記シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ町村役場及郡市役所ヲ經由シ縣廳ニ願出ヘシ
- 第二條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ本籍氏名ノ變換等ニ由リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ其事由ヲ記シ前條ノ手續ニ據リ鑑札ノ書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ
- 第三條 藥種商又ハ製藥者他市町村ニ轉籍寄留シタルトキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ届出ヘシ
- 他府縣ニ轉籍寄留スルルハ本條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
- 第四條 藥種商又ハ製藥者廢業若クハ死亡セシルハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
- 第五條 一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツルハ其分チタル容器ニ製造者(會社ナレハ其所在地名及社名)若クハ外國藥品引次人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所ノ檢査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限ニアラス

第七條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルルハ改訂ヲ命スルヲアルヘシ

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第九條 第一條第三條第二項第七條第十一條ヲ除キ其他ノ各條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營ムルハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ届出ヘシ

第十一條 本則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許證ヲ受ケタル者ト雖モ本則ニ據リ縣廳ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受ケヘシ

○縣令第十號

明治二十三年二月十八日

流行性感胃(インフルエンザ)ヲ診察シタル醫師ハ其患者ノ住所氏名職業年齢發病並ニ初疹ノ月日病症ノ輕重徵候(全治及死亡ハ經過ノ大要)ヲ記載シ速ニ縣廳ニ届出ツ可シ

○衛生

○縣令第二十四號

明治二十三年四月十八日

醫師ニ於テ左ノ病症ヲ診斷(全治及死亡トモ)シタルトキハ別紙書式ニ依リ其都度縣廳ニ届出可シ但第一項ハ流行ノ兆アリト認ムル場合ニ限ル

一 麻疹、風疹、コローア、百日咳、流行性腦脊髄膜炎

一 肺チストマ病、肝臟チストマ病

一 前二項ノ外地方ニ於テ流行病ト認ムルモノ

流病名	何郡(市)何町(村)(大字)何番地
初診	何年何月日
治療	全
死亡	全
備考	何年何月日 何郡(市)何町(村)大字何番地 醫師 氏 名 印
報告者	宮城縣知事宛

○縣令第四十二號

明治二十三年八月十二日

虎列刺病豫防法ヲ定ムルコト左ノ如シ

虎列刺病豫防法

虎列刺病ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セラルモノ、消毒法ニ遺漏ナキハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未ダ散覺セサル以前ニ於テ充分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺病患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ受ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澁キ其吐瀉物ハ成ル可ク之ヲ燒棄スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰

若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ濯キ(成ル可ク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎
ニ前記ノ消毒藥ヲ濯クコト

六 患者ノ用ヒタル衣服器具其他吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ散
亂セサル様之ヲ取纏メ置キ消毒法ヲ受ケシムレコト

七 患者ノ身体、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅、小蟲ノ集マラサル様注意シ
又病室内ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八 看病人ハ己レノ衣服ヲ吐瀉物ニ觸レサル様注意スルコト

九 吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニ
テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十一 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒ
サルコト

第二條 吐瀉物其他病毒ニ汚染シタルモノ、消毒ニ從事シタルモノハ其都度消毒法
ヲ行フヘシ

第三條 虎列刺病發生シタルルルハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ遵守スヘシ
但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘ
シ

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之
ヲ用フルコト

三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水滯ノ破損セルモ
ノハ速ニ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用フルコト

五 総テ下痢ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且其下痢患者ノ上レル便所
ニハ生石灰、石灰乳、又ハ石炭酸水ヲ濯クコト

第四條 虎列刺病流行ノ際下痢若クハ吐瀉スルモノアルトキハ其瀉下物吐出物ニ石
炭酸水、生石灰、若クハ石灰乳ヲ濯キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

○縣令第四十三號 明治二十三年八月十二日

○縣令第四十二號 虎列刺病豫防法第一條ノ各項ヲ病家ニ懸諭スヘシ
○縣令第四十四號 明治二十三年八月十三日

傳染病消毒法左ノ通相定ム
傳染病消毒法
傳染病毒ハ其本體己ニ詳ナルアリ未ダ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機

能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶斯病毒ノ如キハ患者ノ身体及ヒ之ニ接觸セルモノ其他病室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身体病室内ノ空氣ヨリモ傳染シ痘痂痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリモ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スルモノハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力瀉熱藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用用法ヲ領得シ決シテ杜選疏漏ノコトナカラント要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死体及病毒ニ汚染スルコト甚シクシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 瀉熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀉ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱瀉消毒器中ニ入レテ熱瀉ノ内部ニ透達シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄テ攝氏百度以上ノ熱瀉ヲ普チク通シテ消毒スヘシ
熱瀉消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スル

ニ攝氏百度以上ノ熱瀉ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ蓋上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿チ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚ダ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニテモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ瀉熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルルハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持細セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分 水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ 例令石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ 昇汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之

ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後班點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス
一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二 本品ヲ以テ器具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ后淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙昇汞水(千倍)昇汞一分鹽酸五分
水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス
本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ(劇毒ニシテ藥なり飲ビテ)からず)ト票記スヘシ

丙 生石灰
石灰乳(十倍)生石灰一分水九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺腸室扶斯等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物瀉下物下水芥溜等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ
生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノヲ用フヘシ(蛎灰又ハ通常ノ石灰ハ消毒ノ効ナシ)又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水 即チ鹽化(廿倍)格魯兒石灰五分
石灰水(水九十九分)

格魯兒石灰水ハ便所下水芥溜床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ
本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊硫酸若クハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶

解シタルモノ

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳石灰炭酸水等ノ代用品トシテ糞池下水等ノ消毒ニ用フ
ルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ
本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ
沸騰シテ流溢スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分チテ
各別ニ消毒スルヲ可トス又本品ハ漆喰敵金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ
糞池ノ周邊漆喰敵ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス
本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸
若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ
浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死体

傳染病者ノ死体ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スル
ヲ良トス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病者ニ汚染シタル病家ノ家人消毒法施行ニ從事シタル吏員人夫等ハ手

足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人吏員人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間
ニ汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者死体等運搬器

患者死体等ヲ運搬シタル駕籠釣臺戸板ハ使用ノ都度周チク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ
濯グヘシ

第五 便所芥溜下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物腸室扶斯赤痢患者ノ瀉下物ノ入タル便所ノ糞池大糞池肥料溜等
ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水 此用量ハ最低度ヲ示シ
過タルハ固ヨリ濯キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周チク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘ
シ但此消毒法ヲ施行シタル糞池肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又
ハ瀉下物ヲ混入セサルキハ一周間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又
其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ
虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ濯キ吐
瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ
其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其
部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ尽ク取除キテ燒却シ
其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六 衣服器具塵敷物等

- 一 傳染病者ノ著用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具蚊帳飲食器藥用器玩具其他患者ノ居室內ニアリタル諸器具ノ類
- 一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事セル吏員人夫等ノ著用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴草履等
- 一 患者ノ居室內ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚ダシク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス
- (一) 瀝熱消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱瀝熱三十分乃至一時間以上周チク通セシム
- (二) 煮沸熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス
- (三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- (四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- 陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ
- (一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水、等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル后日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ 例之ハ患者ノ吐瀉物、寢下物ノ浸潤セルモノ虎列刺發ハ燒却スヘシ 疹室扶斯痘瘡患者ノ病室內ニ敷キアリタルモノ、類ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室內ノ疊、敷物ヲ揚ケ此疊、敷物ハ前項ニ據ルヘシ 室內各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ 床及ヒ床下ニ吐瀉物滲ハ格魯兒石灰水ヲ掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室內各部ヲ拭淨スヘシ右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ疎通ヲ良クシ室內ノ全ク乾燥スルマテ家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀛車

虎列刺患者アリタル瀛車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭、炭屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ焼却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル場所ニ廻航セシムルヲ要ス

一 患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依テ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇排水又ハ石炭酸水ヲ周チク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗浄シ爲シ得可キタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖ヒ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗浄スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ
一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗浄

スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ虞アル井ハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗浄スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗浄スヘシ

○訓令第二十號

明治二十三年八月十二日

郡市役所 町村役場

虎列刺病豫防法左ノ通相定候條右豫防法ニ依リ取扱フヘシ

虎列刺病豫防法

第一條 市町村ノ衛生主務吏員ハ虎列刺病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサルヘシ

前項醫師ノ通知ニ接セサルモ虎列刺病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クスヘシ

第二條 虎列刺病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヘシ

第三條 虎列刺病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員ハ患者ノ身体若クハ死

屍、看病入、患者ノ居室其他病室ニ汚染セル衣服、器具、等ニ消毒法ヲ行フヘシ

第四條 消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヘシ

第五條 警察官吏ノ消毒ニ要スル藥品及器具ハ市町村設備ノモノヲ使用セシムヘシ
第六條 虎列刺病發生ノ初メニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖凡別棟等判然區別スルチ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ衛生主務吏員ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且ツ豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク

六 絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルハ遮斷ヲ解除スルコト
遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病室已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第七條 交通遮斷區域内若クハ會テ虎列刺病ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒の清潔法ヲ施行スヘシ

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルチ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周チク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

一 家什ヲ出シ疊チ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
第八條 醫師ヲシテ遮斷區域内ニ豫防法ヲ諭示セシムルトキハ前條ノ各項及飲食物ニ注意セシムヘシ

ヘシ此旨布達候事

○甲第百十四號

明治十五年十一月二十二日

神社寺院等創立再興復舊ノ義己ニ許可シタル分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘシ其建
物巨大ニシテ王事數年ニ涉ルモノハ此際更ニ狀ヲ具シ伺出ヘシ且在來ノ社寺ニシテ
變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スルモノハ滿五年以内ニ再建シ落成ノ上ハ速ニ縣廳ニ
届出ヘシ若シ右期限ヲ經過候ハ、建設及再建トモ一切不相成候條此旨布達候事

○甲第百二十號

明治十五年十二月十一日

府縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非サルモノ今後新ニ結集スルルハ其方
法場所等ヲ詳記シ當廳へ出願其認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

○乙第六號

明治十六年二月二十一日

郡區町村

社寺殿堂庫裏造修ノ用材ニ供スル爲メ其社寺境内ノ樹木官民有テ伐採ヲ出願スルモ
ノアルルハ區戸長ニ於テ左ノ件々ヲ詳細ニ調査シ且別紙雛形ニ依リ圖面ヲ製シ其願
ト共ニ差出スヘシ此旨相達候事

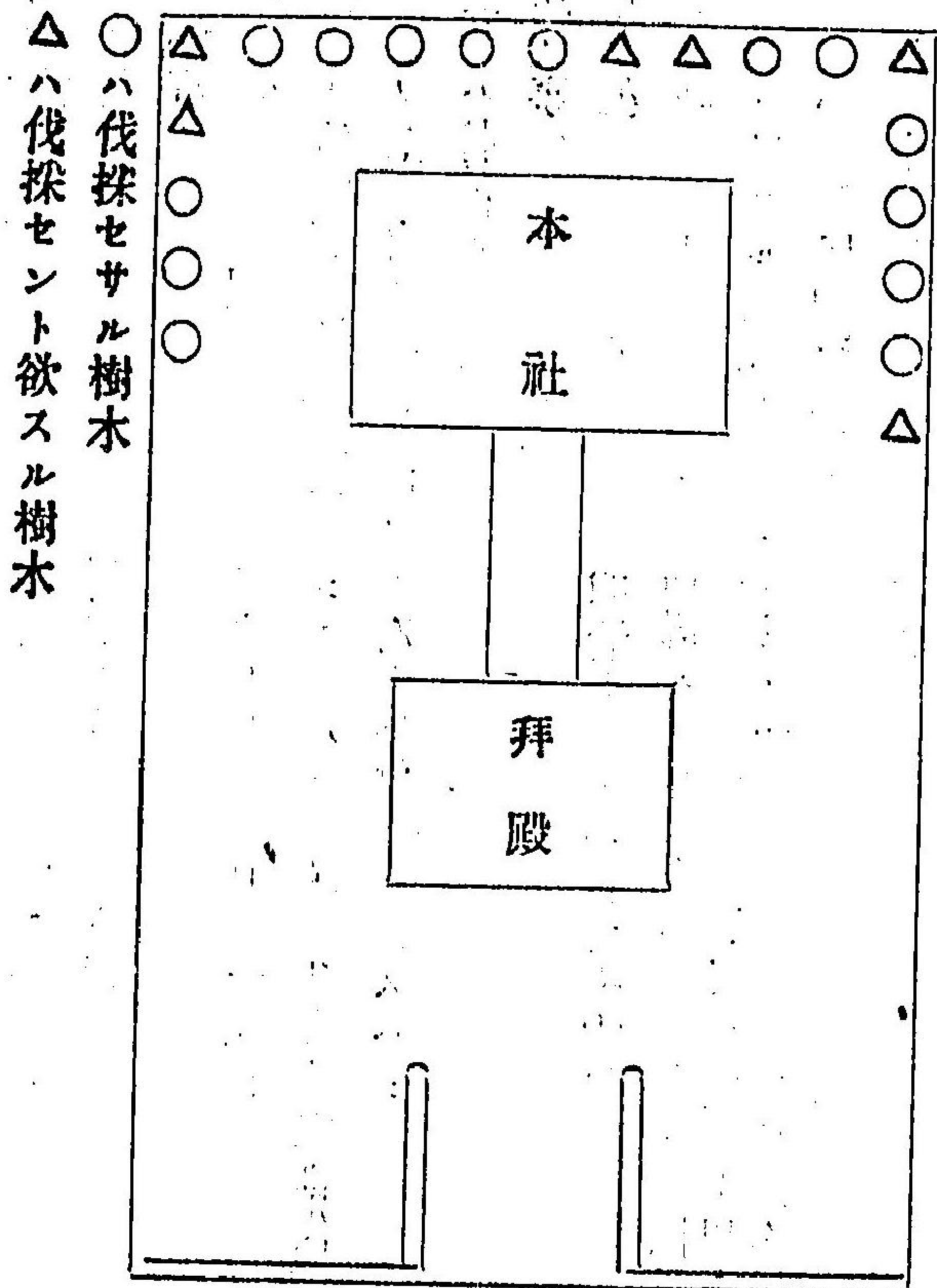
第一 伐採セントスル樹木植付ノ旨趣及ヒ植付タル以來ノ年數並ニ之ヲ伐採スル
ルハ其社寺ノ風致ニ關係有無

第二 其社寺境内樹木ノ總數及ヒ目通一丈廻リ以上五尺廻リ以上一尺廻リ以上一尺
廻未滿ノ本數

第三 前項ノ内伐採セントスル樹木ノ總數及ヒ種類ノ本數

社寺境内圖面

建物ハ本社拜殿ニ限ラス境内ノ建物殘ラス記載スヘシ寺院ナレハ本堂庫裏等明細記
載スヘシ



○ハ伐採セサル樹木

△ハ伐採セント欲スル樹木

○社寺

○甲第十五號 明治十六年二月二十八日

社寺ノ守札下可認モノ及神佛ノ稱號ヲ記載セル畫像ハ其社寺ノ外出版不相成候條此旨布達候事

○甲第二十一號 明治十七年三月二十九日

寺院佛像ヲ他府縣ニ持出開帳セントスルハ該寺住職檀家惣代ハ檀家ノ寺院及本寺法類進署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願スヘシ

但寶物ハ持出ス事ヲ得ス
右布達候事

○乙第七號 明治十八年一月二十六日 郡區町村

祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ハ神社ハ氏子二名以上寺院ハ檀家二名以上本寺自今管長ノ添書ヲ要スヘシ此旨相達候事

○縣令第三十二號 明治二十四年六月六日

明治十四年本縣甲第百五十五號達左ノ通り改定ス

一各郡市町村內社寺惣代人ノ義氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ市町村役場へ届出該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可差出且社寺收入財産(田畑山林ノ所得ハ勿論寶物祈禱葬儀回向料等一

切ノ受納物ヲ云フ)ハ其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定メ平素混亂セサル様取調置ク可シ

但神官官國幣社ハ此限ニアラス

一社寺總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場へ届出ツヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選ス可シ

但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

○縣令第三十三號 明治二十四年六月八日

官有地社寺境內使用並竹木伐採等ノ件左ノ通定ム

一官有地社寺境內ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ町村役場郡市役所ヲ經縣廳ノ認可ヲ受クヘシ但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限リ承諾スルコトヲ得
一官有地社寺境內ノ竹木ヲ伐採シ及枯損木障碍木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ルヘシ

一社寺境內ノ使用料並竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ但收入財産ハ本年(六月)縣令第三十二號ニ依リ整理スヘシ

●登記

○乙第九號 明治十八年二月十二日 郡區町村

戸長役場備印鑑簿様式別冊ノ通相定候條此旨相達候事
(別冊)

印鑑簿

何戸長役場

凡例

一此帳簿ハ一村一冊トシ冊中ヲ苗字ノ首音ニ依リイロハ四十八ニ區別シイロハ四十八毎ニ見出札ヲ付シテ調製スヘキモノトス
一此帳簿ノ用紙印鑑ノ寸法及用紙ハ八年本縣甲第八十六號達ニ依ルヘシ
一改印死亡隠居ノ届アルトキハ前ノ印鑑ニハイ印ノ如ク朱書シ新ニ出シタル印鑑ニハロ印ノ如ク朱書スヘシ
イノ部

何町(字何)何番地士族(平民)戸主
伊藤 權 兵衛

明治何年何月何日改印

何町(字何)何番地士族(平民)權
兵衛長男(次三男)
伊藤 八 兵衛

何町(字何)何番地士族(平民)戸主
伊藤 權 兵衛

明治何年何月何日改印

何番地士族(平民)戸主
飯塚 五郎

明治何年何月何日死亡跡相續長治

何番地(士族)平民戸主

飯塚 長治

明治何年何月何日改印

ハノ部

何番地平民戸主
半田 某

何番地平民某隠居
半田 某

何番地士族(平民)戸主

飯塚 長治

明治十何年何月何日五郎死跡相續

明治何年何月何日改印

○登記

二百二十三

二百二十二

○縣令第六十八號
明治二十二年十二月四日
土地ヲ分合シ賣買讓與質入ヲナサントスルモノハ其登記請求前ニ於テ本年(六月)縣令第五十一號ノ手續ヲナスヘシ

●土地

○甲第三十八號
明治十四年二月二十一日

官有荒蕪地等開墾ノ儀ニ付テハ昨十三年(八月)諭第十號達ノ趣モ有之候處無借地料貸渡假手續左ノ通相定メ候條開墾望ノ者ハ向後右手續ニ照準可願出此旨布達候事
但通常官地拜借ノ儀ハ明治十二年甲第三百三十二號達ノ通心得ヘシ

官有地無借地料貸渡假手續

- 第一條 凡一町歩以上ノ官有原野及ヒ荒蕪地等ニテ一畝ノ事業ヲ爲シ得ヘキ箇所ハ二十ヶ年以内ノ年季ヲ定メ無借地料ヲ以テ貸渡開墾ヲ爲サシム
- 第二條 前條ノ地ヲ拜借シ田及畑ヲ開拓セント欲スルモノハ開墾願書式ニ依リ年々開墾スヘキ區域ヲ定メ其反別調書並ニ繪圖面相添ヘ願出ヘシ
但繪圖面ハ年々開墾スヘキ區域反別等明瞭ニ記載スヘシ
- 第三條 貸渡年限内ニ於テ開墾成功期限ヲ定ムルモノトス(譬ヘハ八ヶ年ノ拜借年限ナレハ其内六ヶ年ヲ以テ成功期限ト爲スノ類)

- 第四條 成功期限内ニテ年々開墾スヘキ豫定ノ區域卒業ノ成否取調其年十二月二十日限リ届出ヘシ
- 第五條 成功期限内ニ於テ開墾卒業スルルハ貸下年期明ノ節ニ至リ素地相當代價ヲ以テ本人ヘ拂下ルモノトス
但成功期限内ニ於テ卒業セサルカ若クハ不正ノ所業コレアル節ハ其開墾セサル部分或ハ全地ヲ還納セシムルコトアルヘシ
- 第六條 貸渡年期中ト雖モ公同便益ノ爲メ河川道路等ノ用ニ供スルルハ返地セシムルモノトス尤モ此場合ニ於テハ開墾費用ノ支消明確ナルモノハ償還スヘシ

官有地開墾願

- 何國何郡何村
- 字何 何番
- 一何々地反別何程
- 此素地相當代價金何程 但一反歩ニ付金何程
- 當明治何年ヨリ何ヶ年季
- 但一ヶ年反別何程ツ、開墾見込
- 成功期限
- 拜借期限
- 當明治何年ヨリ何ヶ年季
- 右畑開墾ノ爲メ拜借致度御聞届上レハ開墾御成規堅ク相守可申尤モ右年期中開墾ヲ

○土地

怠り若クハ不正ノ所爲有之節ハ返地被仰付候テモ聊カ申分無之依テ保證人連署ノ上別紙調書並ニ圖面相添此段奉願候也

年月日

何國何郡區町村番地

願人 姓

名印

全

保證人 姓

名印

全

保證人 姓

名印

宮城縣令宛

前書ノ通相違無之候也

何村戸長

姓

名印

年月日

明治十四年七月七日

○甲第百十號

水源涵養風潮除等ノ禁伐官林ヲ養護スル爲メ地元町村協議ノ上監守人ヲ設置致度向ハ認可ニ可及候條左ノ書式ニ依リ取調郡役所ヲ經由シ可願出此旨相違候事但退職ノ節モ本文同様願出ヘシ

禁伐官林監守人認可願

何國郡區町村
字何

何國郡區町村
族籍

一禁伐官林反別何程

何

誰

右者同町村(一村又ハ數村カ或ハ一村)ノ内何國等ヲ詳記スヘシ)協議ノ上前記ノ者ヲ公選年給若干ヲ支給シ監守爲致度ニ付御認可相成度此段相願候也

何國郡區町村
物代

年月日

何

誰

全

何

誰

宮城縣令宛

前書ノ通相違無之候也

戸長

何

誰

年月日

數村ニテ協議願出者
ハ一村總代及戸長共
各村連署スヘシ

○土地

○甲第百五十七號

明治十四年九月二十二日

川敷堤防敷等ノ木竹ハ追テ何分ノ方法相立候迄ハ官民有ニ限ラス安ニ伐採不相成候
條水利其他ノ障害ニヨリ伐採ヲ要スルハ其時々可願出此旨布達候事

○甲第百六十九號

明治十四年十月二十四日

仙臺區市街町名ノ内一名ニシテ敷町ヲ連耳セルモノ左ノ通區分致候條此旨布達候事

- 新弓ノ町(二丁目ヨリ二丁目マテ)
- 南 鍛 冶 町(全)
- 若林六十人町(全)
- 弓ノ町(全)
- 石 名 坂(全)
- 舟 町(全)
- 若林五十人町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 表 柴 田 町(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 木ノ下(全)
- 裏 柴 田 町(全)
- 東 街 道(一丁目ヨリ七丁目マテ)
- 米ヶ袋鹿子清水通(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 南 材 木 町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 荒 町(一丁目ヨリ四丁目マテ)
- 連 坊 小 路(一丁目ヨリ五丁目マテ)
- 成 田 町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 南 柴 師 町(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 若林三百人町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 土 樋(一丁目ヨリ五丁目マテ)
- 榎 木 通(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 元 茶 畑(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 西 新 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 長 町 通(一丁目ヨリ五丁目マテ)
- 米ヶ袋中丁(一丁目ヨリ二丁目マテ)

米ヶ袋中ノ坂通(全)

- 片 平 丁(一丁目ヨリ十丁目マテ)
- 元 鍛 冶 町(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 良 覺 院 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 立 町(全)
- 定禪寺通(全)
- 本 材 本 町(一丁目ヨリ四丁目マテ)
- 川内川前丁(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 川内大工町(全)
- 川内元支倉通(全)
- 川内龜岡通(全)
- 川内大堀通(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 川内筋違橋通(全)
- 琵琶首 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 花 壇(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 川内裏下馬裏(全)
- 田 町(全)
- 米ヶ袋上丁(全)
- 道 場 小 路(全)
- 本 荒 町(全)
- 肴 町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 元 櫓 丁(全)
- 北 材 木 町(全)
- 本 柳 町(全)
- 大町三丁目横丁(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 川内元支倉(全)
- 川内渡橋通(全)
- 川内中ノ坂通(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 川内大橋通(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 中ノ町(全)
- 琵琶首新町(全)
- 細 横 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ)
- 米ヶ袋新丁(一丁目ヨリ二丁目マテ)
- 北 目 町(全)

○土地

柳町全
 東一番 丁(二丁目ヨリ五丁目マテ) 東二番 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 東三番 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ) 東四番 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ)
 東五番 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 東七番 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 東六番 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ) 東九番 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 東八番 丁(二丁目ヨリ五丁目マテ) 東十番 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 東十番 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 南町 通(二丁目ヨリ八丁目マテ)
 清水小路 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 二十人町 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ)
 鉄砲町 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ) 小田原車通 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 小田原裏山本丁 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 小田原金剛院丁 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 小田原牛小屋丁 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 小田原大行院丁 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 小田原清水沼通 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 小田原北一番丁通 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 小田原東丁 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 柳町 通(二丁目ヨリ七丁目マテ)
 北目町 通(二丁目ヨリ六丁目マテ) 新寺小路 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 小田原長丁通 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ) 年徳神横丁 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 五ッ橋通 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 新傳馬町 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 名掛 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 立町 通(全)

元寺小路 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ) 同心町 通(二丁目ヨリ四丁目マテ)
 國分 丁(二丁目ヨリ五丁目マテ) 勾當臺 通(全)
 堤 通(二丁目ヨリ八丁目マテ) 外記 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 外記丁通 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 花京院 通(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 中杉山通 丁(二丁目ヨリ九丁目マテ) 光禪寺 通(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 長 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ) 長刀 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ)
 空堀 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 宮 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ)
 北田 町(二丁目ヨリ三丁目マテ) 北一番 丁(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 北二番 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ) 北三番 丁(二丁目ヨリ四丁目マテ)
 北四番 丁(二丁目ヨリ五丁目マテ) 北五番 丁(二丁目ヨリ九丁目マテ)
 北六番 丁(二丁目ヨリ九丁目マテ) 北七番 丁(二丁目ヨリ七丁目マテ)
 北八番 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ) 北九番 丁(二丁目ヨリ五丁目マテ)
 北十番 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 二本杉通 丁(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 杉山 通(二丁目ヨリ五丁目マテ) 上杉山 通(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 虎屋横 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 二日 町(二丁目ヨリ三丁目マテ)
 北鍛冶 町(二丁目ヨリ三丁目マテ) 通 町(二丁目ヨリ六丁目マテ)
 跡付 丁(二丁目ヨリ二丁目マテ) 神子 町(二丁目ヨリ二丁目マテ)

北 山 町(一丁目ヨリ三丁目マテ) 木 町 通(一丁目ヨリ九丁目マテ)
 支 倉 通(一丁目ヨリ八丁目マテ) 新 坂 通(一丁目ヨリ八丁目マテ)
 十 二 軒 丁(一丁目ヨリ二丁目マテ) 八 幡 町(一丁目ヨリ三丁目マテ)
 中 島 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ) 北 五 十 人 町(一丁目ヨリ二丁目マテ)
 瀧 前 丁(一丁目ヨリ二丁目マテ) 澗 町(全)
 土 橋 通(一丁目ヨリ五丁目マテ) 角 五 郎 川 前 丁(一丁目ヨリ三丁目マテ)
 中 ノ 横 丁(一丁目ヨリ二丁目マテ) 小 田 原 廣 丁(一丁目ヨリ二丁目マテ)

○乙第四號

明治十五年二月七日

郡區町村

神社境外土地ノ内官林ニ編入ノ分更ニ禁伐林ニ訂正候條爲心得此旨相達候事

○甲第二十五號

明治十五年三月一日

民有ノ土地ヲ開墾シ鐵下年期ヲ要スルモノハ開墾ノ費用ト成功ノ後該地ヨリ得ヘキ
 收利トテ豫算左ノ書式ニ倣ヒ本願書ニ添テ可差出此旨布達候事
 但鐵下年期ハ豫算ノ收利ヲ以テ開墾費用ヲ償却シ得ヘキ相當ノ年期ヲ記載スヘシ
 (書式)

記

國郡村 字園番號

一何反別何程

(全國ノ地ニシテ費用及收利ノ異ナラサル數筆ニ係ルモノハ一筆限番號反別ヲ内譯ニ記入スヘシ)

此開墾役夫何人

但一反歩ニ付 何人懸

此賃金何程

但一人ニ付 何程

開墾成功ノ後一ケ年收穫ノ目途

耕地ハ

米麥大豆何程

但一反歩ニ付 何程

此代價何程

但某宿町前三ケ年或ハ五ケ年平均相場一石ニ付金何程ノ割合ヲ以テ算出ス
 宅地ハ (山野ノ嶮岨岩石ヲ鑿平シ或ハ池沼ヲ埋立非常ノ勞費ヲ要スルモノノ類ヲ云フ)

金何程

但一反歩ニ付 何程

右ノ通ニ候也

年 月 日

何郡何町番地

宮城縣令宛

某

印

○土地

本年(五月) 甲第六十六 加ヲ以テ追

記

國郡村
字園番號

一何反別何程

此收穫米或ハ麥大豆何程

一人夫一人ニ付賃金何程

近傍普通ノ賃金ヲ記スヘシ

右ノ通ニ候也

(田ニ開墾ナレハ該地近傍ノ
熟田ヲ記載スルノ如ク云
但一反歩ニ付
何程)

何郡何町戸長

某

印

年月日

宮城縣令宛

○丙第十三號

明治十八年六月一日

郡區

官有森林山野及荒蕪地等ノ枯木倒木其他物品入札拂下ノ節ハ別紙書式ニ準シ落札人ノ請書ヲ徴シ處分濟届書一同進達可致此旨相達候事
但既ニ處分濟届出ノ分ト雖モ十七年度以降ニ係ルモノハ此際取纏進達スヘシ

請書式

入札拂下落札ニ付御請書

何國何郡何町字何々等官林

一何枯木何本

代金何程

但土種及字ノ異ナルモノハ廉限リ記載スヘシ尤モ官有山野荒蕪地葦葦等拂下ノ分モ此例ニ準ス

右今般入札ノ上私高札ニ付書面ノ金員ヲ以テ御拂下相成旨御達ノ趣敬承仕候代金何月幾日限リ上納可仕候依テ御請申上候也

何國何郡何町何番地身分

何

某印

年月日

區郡長宛

○訓令第五十五號

明治二十年六月十一日

郡區

地券臺帳總計式ヲ定ムルコト左ノ如シ
此例ニ倣ヒ字限小計ヲ付ス可シ

何町村總計

年度	地目	反別	地價	地租	荒地反別	地券筆數
----	----	----	----	----	------	------

○土地

地租條例第十條變換土地臺帳及土地所有者名寄帳訂正方左之通心得ヘシ

一地目若クハ地類變換屆書ニ奧書スル片ハ變換セシ地目ヲ土地臺帳及土地所有者名寄帳元地目ノ傍ニ朱字訂正シ元反別地價地租ヲ其變換セシ地目ニ組換フヘシ

一修正地租徵收ノ年度ニ於テ變ニ訂正セシ地目及修正地價地租ヲ土地臺帳并土地所有者名寄帳ヘ其記載式ニ依リ訂正スヘシ

○訓令第三十三號 明治二十四年六月六日

郡市役所 町村役場

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル市町村ニ於テ縣應ノ認可ヲ請ケ處分スヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ニ於テ管理スヘシ

● 人 民

○乙第二十八號

明治十五年七月十九日

郡區町村

無籍在監人就籍ノ義ニ付本年六月内務省乙第三十九號達ニ據リ該地ヘ就籍ノ手續ヲ行ハシメタル節ハ最寄警察署又ハ分署屯所ヘ通知可致此旨相達候事

○甲第七號

明治十六年一月二十九日

衛生局衛生年報表式中結婚統計表調製ニ付テハ自今男女共結婚婿養子入夫送籍スル

モノハ管内外ヲ問ハス送籍證中本人ノ肩書某何男又ノ下ヘ初縁又ハ再縁ト記載可致此旨布達候事

○乙第十六號

明治十六年五月五日

郡區町村

當縣下在籍者ニシテ行旅中神奈川縣下ニ於テ途上天災又ハ病氣ニ罹リタルトキハ警察官ニ於テ一時救護ヲ加ヘ其重病危篤ノ者ニ限り其地ノ戸長ヘ引渡救護方爲取計右

ニ屬スル經費ハ其時々該戸長ヨリ當人本籍ニ通知可致旨同縣ヨリ照會有之候條右戸長ヨリ照會有之候ハ、夫々辨償方可取計此旨相達事

○乙第四十七號

明治十六年八月三十日

郡區町村

管下人民ニシテ旅行中他府縣下ニ於テ天災又ハ重病ニ罹リ目下難悶モノ有之節ハ相當救護シ右ニ屬スル經費辨償方其時々所在戸長ヨリ通報可有之筈ニ候條其際ニ於テハ篤ト取調該經費速ニ辨償可致様可取計此旨相達候事

○乙第八號

明治十七年二月六日

郡區町村

○ 人 民

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ區戸長ニ於テ保管スルルハ財産目錄ヲ作り戸長ハ郡長ニ差出ヘシ此旨相達候事

○乙第十六號 明治十七年四月二十一日 郡區町村

行旅病人及死亡人取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

但明治十年縣甲第三十二號全第三十三號及全十六年乙第十八號達ハ廢止ス

行旅病人及死亡人取扱手續

第一條 行旅人重病ニシテ飢餓ニ迫リ目下難捨置者アルル其地區戸長ハ相當ノ救護

ヲ加ヘ其旨速ニ本籍區戸長ニ通報スヘシ
但病名並ニ歩行ノ難易豫後等ヲ記入セシ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二條 行旅病人ノ救護費ハ左ノ種目ニ限ル可シ

- 一看護人ノ雇料
- 一食料
- 一藥價及診察料
- 一借家(小屋掛)料
- 一薪(炭)料

第三條 行旅死亡人アルルハ其地區戸長ハ最寄墓地ヘ假埋葬シ速ニ本籍區戸長ニ通報スヘシ

但倒死溺死變死等ニ係ル者ハ所轄警察署又ハ警察分署ヘ通報シ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第四條 死亡人ノ本籍詳ナラサルル其地區戸長ハ第一號書式ニ依リ三十日間最寄掲

十九年(四)月乙第廿七號以テ追加

示場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第五條 死亡人ノ假埋葬費等ハ左ノ種目ニ限ルヘシ

- 一棺桶
- 一繩
- 一庭
- 一竹木
- 一看守人雇料
- 一埋葬人夫費
- 一新聞公告料

第六條 前條ノ費額ハ新聞紙公告料ヲ除クノ外金三圓以内ヲ以テ處辨スヘシ

第七條 死亡人ノ遺金ハ第五條ノ費用ニ供シ又所持ノ物品ハ第四條ノ揭示ヲナシタル日ヨリ九十日間ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルハ之ヲ公賣シ全上ノ費用ニ充ツヘシ

第八條 死亡人ノ遺金並公賣金ノ内第五條ノ費用ニ充テ餘額アルルハ之ヲ其本籍ヘ送付内然シ本籍詳カナラサルルハ之ヲ五ヶ年間戸長役場若クハ區役所ニ保管シ仰ホ本籍詳ナラサルル區戸長ハ第四號ノ仕譯書ヲ調製シ之ヲ縣廳戸長ハ郡ヘ送納スヘシ

第九條 行旅病人及死亡人ニ屬スル費用ハ其時々本籍區戸長ヘ通報シ辨償ヲ受クヘシ

第十條 無籍無資者ニ屬スル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキニ付詳細取調第二號又ハ

第三號ノ仕譯書ヲ添ヘ區戸長ハ之ヲ縣廳戸長ハ郡ニ請求スヘシ

但死亡人ニ屬スル費用ハ第四條揭示ノ日ヨリ九十日間ヲ過キ仍ホ本籍詳カナラ

一覽ルル本條ニ準シ之ヲ請求スヘシ

○人民

第一號

產住所ノ一端ヲ知サ得タル者ハ肩書スヘシ

姓 名

年 齡

姓名年齡詳カナラサル者ハ
(年齡何歲位)ト記スヘシ

相 貌

一 丈何尺何寸位 一 肉何狀

一 頭髮何狀 一 顔何狀

一 眉何狀 一 眼何狀

一 鼻何狀 一 口何狀

別徴アルモノハ尙ホ此ニ記載スヘシ

着 服

一 何々 一 何々

所持品

一 何々 一 何々

衣類ハ色編等他ノ物品ハ形狀地質等詳細ニ記載スヘシ
右本年何月何日何村(何町)字何々ニ於テ倒死(溺死)(變死)致候ニ付(致居候ヲ發見

候ニ付)假埋葬取計置候條身寄ノ者又ハ心當ノ者有之候ハ、速ニ當役所(役場)へ申
出ツヘシ

第二號

何 役 所 (役 場)

仕 譯 書

金何程

借家(小屋掛)料

但雜品金何程人夫一人金何程

延人員何程

看護人料 但一日一人金何程延人員何程

食料

但一賄金何程延賄何程

藥價

但一日金何程延日數何程

金何程

合金何程 右之通相違無之賣券等相添上申候也

年 月 日

何 區 (戶) 長 姓 名 印

縣令宛(戶長ハ)
郡長宛

人 民

第三號

仕譯書

棺桶代
但一個

繩代
但一把

丸木代
但一本

金何程

金何程

合金何程

內

金何程

金何程

右之通相違無之候條練替金御下渡有之度賣券等差添此段上申候也

年月日

第四號

仕譯書

何區(戶)長 姓 名 印

縣令宛(戶長ハ) 郡長宛

遺金及所持品公賣金ヲ以テ支辨ノ分
一時練替支辨ノ分

遺金
遺物公賣金

金何程

金何程

合金何程

是ハ何年月日本籍不詳者某某地ニ於テ病死ノ節遺金其外保管ノ分滿五ヶ年經過
ノ所尙ホ本籍不詳ニ付上納ノ分

外

金何程

計金何程

右之通納證等差添上納候也

年月日

何區(戶)長 姓 名 印

縣令宛(戶長ハ) 郡長宛

明治十八年九月二十一日

那區町村

○乙第五十九號
自今褒賞條例ニ相當スル見込ノ者有之節ハ區戶長ニ於テ左ノ要件無遺漏取調(戶長
長テ)具申スヘシ此旨相違候事

賞與上申書ニ具狀スヘキ要件

一住所族籍職業 官位勳等アル者

一姓名年齡

○人民

一 受刑受賞ノ有無 賞罰トモ其全
文ヲ掲ケヘシ
一 褒賞ヲ賜ハルヘキ要旨

人名救助者

- 一 被救助者ノ住所族籍姓名年齢
- 一 最モ危難ト見認ムヘキ實況 被救助者ノ口供
ヲ添ユルヲ要ス
- 一 敷人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ率先尽力ノ者ヨリ甲乙ノ區別
- 一 水難者ヲ救助セシ者ハ游泳シテ其所ニ至リシヤ又ハ船筏或ハ助綱等ヲ以テ
セシヤノ區別
- 一 水難者ト救助者ノ船又ハ陸上ノ距離及河海ノ深淺廣狹水勢ノ緩急風力ノ強
弱等 繪圖面ヲ添ヘテ其場所ノ
形狀ヲ明カニスルヲ要ス
- 德行者
- 一 履歷
- 一 家族ノ員數 戶籍寫ヲ添
ユルヲ要ス
- 一 其家ノ貧富
- 一 其志行最モ卓絶ト見認ムル件
- 一 其志操ヲ變セサルノ年數
- 公益ヲ興セシ者

平素ノ志行

- 一 事業經營ノ始末及ヒ將來維持ノ方法並費金ノ額 費金ハ本人ヨリ支出セシヤ
又ハ他人ヨリ寄贈ニ係ル等
- 一 學校病院等ヲ設立セシモノハ其構造並建坪其他教師生徒及ヒ醫員患者ノ員
數
- 一 疏河築堤修繕ニ係ルモノハ工事ノ摸樣着手及ヒ竣功ノ年月施工前後實地ノ
景況又ハ川幅堤等ノ里程間數等 繪圖面ヲ添
ユルヲ要ス
- 右ノ外ト雖モ緊要ノ件ハ記載ヲ要ス

○乙第一號

明治十九年一月二十八日 郡區町村
本縣下在籍者ニシテ札幌縣下ニ全戸寄留ノ者ニ對シ在籍證書等ヲ要シ該住地戶長役
場若クハ郡役所ヘ照會ノ節ハ戶籍寫ヲ添ヒヘキ旨同縣ヨリ照會越候條右様可取計此
旨相達候事

○乙第二號

明治十九年二月一日 郡區町村
明治十八年(九月)乙第六十號達賞與申請書式別紙之通更正候條此旨相達候事
(別紙)

寄附金拾圓以上ノ金員人名取調表

寄附金額	學校病院道路橋梁	費途ノ	寄付	本籍住所	族籍	姓	名
聖田等所在地名	目的	年月日					

○人民

、、、、	何國郡(區)町村	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	華士族(平民)	何	某
、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	何	町	村
計何千何百何拾何圓		計何十何人						

寄付物品價格拾圓以上物品人名取調表

寄附物品個數(坪數)	價格	學校病院道路橋梁聖田等所在地名	費途ノ目的	寄付年月日	本籍所	族籍	姓名
、、、、	、	何國郡(區)町村	、、、、	、、、、	、、、、	華士族(平民)	何
、、、、	、	、	、	、	、	何	會社
計何千何百何拾何圓				計何十何人			

凡例

- 一 寄付金穀物品壹圓以上壹圓未滿ノ分モ之ニ準シ各別ニ調製スヘシ
- 但壹圓未滿ハ正副二通ヲ要ス
- 一 寄付年月日ハ金穀物品ヲ納入セシ年月日ヲ記入シ又年賦寄付ハ初年ノ月日ト完納ノ年月日ヲ記入ス
- 一 勞力ヲ寄付セシ者ハ其延人員ヲ寄付物品ノ欄ニ記入シ賃銀ハ合算シテ價額ノ欄ニ

記入ス

- 一 寄付者ハ其住所ノ府縣郡區町村名ヲ本籍住所ノ欄ニ併記ス
 - 一本表ハ事項繁雜ニシテ一行中ニ記載シ尽ス能ハサル者ハ次行ニ記スルモ妨ナシ
 - 一 學校ハ其種類例ハハ小學校中學校或ハ縣立町村立等ノ區別ヲ記載シ病院モ亦之ニ準ス
 - 一 費途ノ目的ハ例ハハ學校病院等へ金員ヲ寄付セシモノハ建築費書籍購求費ト明記スルカ如シ
 - 一 官位勳爵有ルモノハ族籍ノ下ニ記載ス
 - 一 用紙ハ大判美濃十三行界紙ニ限リ其他ヲ用ユ可カラス
- 乙第十二號 明治十九年四月七日 郡區町村
- 縣令第三號 明治十九年七月三十日 郡區町村
- 訓令第十五號 明治十九年十一月二十五日 郡區町村
- 自今棄兒拾上ケ又ハ死亡等有之時ハ其時々區戶長ヨリ報告スヘシ
- 但明治十六年(七月)丙第二十三號達ハ廢止ス
- 戶籍登記書式等別冊ノ通之ヲ定ム

○人民

戶籍登記書式第一

書式中○印ハ朱字又ハ朱線

何年何月何日何十何番地ニ移ル ^印		○士族 何年何月何日華族ニ列セラル ^印	
何縣何郡何村何番地		前戶主 亡父何某	
何年何月何日何府何區何町何番地ニ轉籍 ^印		○戶主 亡父某長男	
何年何月何日相續 ^印 何年何月何日願濟改名 ^印 何年何月何日願濟復姓 ^印		復姓號 新名 何一。某	
何年何月何日何縣何郡何村平民何某ニ女入籍ス ^印		母 某	
何年何月何日何府何區何町士族何某長女入籍ス ^印		妻 某	
何年何月何日願濟廢嫡 ^印		長男 何 某	

何年何月何日何府何區何町平民何某長男名ニ嫁ス ^印		長女 何 某	
何年何月何日死之 ^印		二男 何 某	
何年何月何日何縣何郡何町平民何某養女トナル ^印		二女 何 某	
何年何月何日同縣同郡同村何番地ニ分家ス ^印		亡父某二男 何 某	
何年何月何日何縣何郡何村平民何某ニ女入籍ス ^印		弟 何 某	
何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス ^印		弟 何 某	
○人民		妻 何 某	

何年何月何日同縣何郡何村何番地絕家何氏ヲ再興ス⑩	何年何月何日同縣同郡同村平民何某ニ嫁ス⑩	何年何月何日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス⑩何年何月何日失踪⑩何年何月何日滿八十歳ニ付除籍⑩	何年何月何日失踪⑩何年何月何日何縣何郡何村ニ現在⑩	何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ死亡⑩	何年何月何日何地某裁判所言渡ニヨリ何縣何郡何町平民何某妻離婚ニ付復籍⑩
弟	妹	大 叔伯 母	叔	父	叔 母
亡父某三男 何年何月何日生 何	何年何月何日生 何	何年何月何日生 亡曾祖父某四女 何	何年何月何日生 亡祖父某三男 何	何年何月何日生 亡祖父某二女 何	何年何月何日生 何

何年何月何日何府何區何町平民何某長男名妻離婚ニ付復籍⑩	何年何月何日何縣何郡何町士族何某方へ離婚復籍ス⑩	何年何月何日何縣何郡何町士族何某長女入籍ス⑩	何縣何郡何町平民氏名二男何年何月何日母某離婚復籍ニ付願濟携帶⑩	何年何月何日同縣同郡何村平民何某二男入籍ス⑩
長 孫	婦	弟	從	子 養 女
何年何月何日生 長男某長男 何	何年何月何日生 長男某妻 何	何年何月何日生 何	何年何月何日生 何	何年何月何日生 養子某妻 何

○人民

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何地何裁判所言渡云々ト記スヘシ
朱線ハ除籍又ハ姓名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルトキニ齎スルモノトス

戶籍登記書式第二

何府何郡何町

何年何月何日何町何番地地先ニ於テ拾上①
何年何月何日何町平民何某養子ト爲ル①

何年何月何日何町通何處ニ於テ拾上①

何年何月何日何縣何郡何村平民何某引受ト爲ル①

兒 樂 兒 樂

○何。○某
推測何年何月生
○何。○某
推測何年何月生

入寄留簿登記書式第三

何縣何郡何町何番地寄留

本縣何郡何町何番地
士族

何年何月何日全戶寄留届出①

何年何月何日退去届出①

何年何月何日寄留届出①

何年何月何日出生何年何月何日届出①

戶	主	母	妹	妻	長	男
亡父某二男	何 某	何年何月何日生 亡父某妻	何年何月何日生 亡父某長女	何年何月何日生 某	何年何月何日生 某	何 某

備考 他府縣人入寄留簿ノ本籍ハ何府縣何郡區何町村何番地ト記ス
簿ノ本籍ハ何郡區何町村何番地ト記ス他郡區人入寄留

○人民

入寄留簿登記書式第二

何府何處何町何番地借地寄留

何年何月何日退去届出

何年何月何日妻外一名携帶寄留届出

本籍何縣何郡何村何番地

平民戶主氏名

父某二男

何某

何年何月何日生

妻某

某

何年何月何日生

女二某

某

何年何月何日生

女長某

某

何年何月何日生

何年何月何日寄留届出

何年何月何日退去届出

入寄留簿登記書式第三

何年何月何日何町何番地平民何某方入寄留届出何年何月何日改名願濟何月何日届出

何年何月何日何町何番地平民何某方入寄留届出何年何月何日死亡

何年何月何日何町何番地士族何某方入寄留届出何年何月何日退去届出

何年何月何日何町何番地平民何某方入寄留届出

何年何月何日何町何番地平民何某方入寄留届出何年何月何日何町何番地何某方入寄留替届出

何縣何郡何村何番地士族

何某二男

新名

何年何月何日生

何府何郡何村何番地平民

何某

何年何月何日生

何縣何郡何町何番地平民

何某妹

某

何年何月何日生

何府何郡何町何番地平民

何某

何年何月何日生

何人妻

某

何年何月何日生

出寄留簿書式第一
出寄留簿 他郡區之部

寄留年 月日	寄留屆書 發送月日	寄留屆書 受領月日	寄留地 名族	籍 等	親 別	備	考 姓	名
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何郡何村何番地	何某父	何某父		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何郡何村何番地	何某二男	何某二男		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何郡何村何番地	何某二女	何某二女		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何郡何村何番地	何某弟	何某弟		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何郡何村何番地	何某弟	何某弟		何	某

出寄留簿書式第二
出寄留簿 他府縣之部

寄留年 月日	寄留屆書 發送月日	寄留屆書 受領月日	寄留地 名族	籍 等	親 別	備	考 姓	名
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何府何區何町何	何某二男	何某二男		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何府何區何町何	何某二男	何某二男		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何府何區何町何	何某二男	何某二男		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何府何區何町何	何某二男	何某二男		何	某
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何府何區何町何	何某二男	何某二男		何	某

登記目錄部門并事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

- 本籍人管内出生之部
- 本籍人管外出生之部
- 棄兒之部
- 無籍者就籍之部
- 他府縣ヨリ入籍之部
- 一 結婚入籍
- 二 縁女入籍
- 三 養子女入籍
- 四 相續人入籍
- 五 携帶者入籍
- 六 親族入籍
- 七 私生子引受
- 八 棄兒引取
- 九 棄兒引受替入籍

○人民

- 十 離婚復籍
- 十一 養子女離婚復籍
- 十二 相續人離婚復籍
- 十三 分家入籍
- 十四 分家者復歸入籍
- 十五 附籍者入籍
- 十六 附籍者別立入籍
- 十七 絶家再興入籍
- 十八 轉住入籍
- 他郡區ヨリ入籍之部
- 事項同上
- 他戸長役場管内ヨリ入籍ノ部
- 事項同上
- 登記目錄部門并事項書式第二
- 登記目錄
- 除籍目錄
- 本籍人管内死亡之部

本籍人管外死亡之部

失踪者及重籍者除籍之部

他府縣へ送籍之部

一 結婚送籍

二 縁女送籍

三 養子女送籍

四 相續人送籍

五 携帶者送籍

六 親族送籍

七 私生子引渡

八 棄兒引渡

九 棄兒引受替送籍

十 離婚送籍

十一 養子女離縁送籍

十二 相續人離縁送籍

十三 分家送籍

十四 分家者復歸送籍

十五 附籍者送籍

十六 附籍者別立送籍

十七 絶家再興送籍

十八 轉住送籍

他那區へ送籍之部

事項同上

他戸長役場管内へ送籍之部

事項同上

登記目錄部門種事項書式第三

登記目錄

管内異動目錄

管内送入籍之部

事項加籍目錄入籍之部除籍目錄送籍之部ニ同シ

異同之部

六 戸内結婚

五 戸内離婚

四 家名相續

○人民

廿年制令第
三十八號ヲ
以テ追加

登記目録書式第一
明治何年加籍目録
本籍人管内出生之部

- 四 廢戶主
- 五 廢嫡
- 六 廢嫡者復立
- 七 庶子私生子爲嫡出
- 八 棄兒立戶
- 九 失踪
- 十 失踪者復歸
- 十一 失踪者所在分明
- 十二 改名
- 十三 復姓
- 十四 身分變換
- 十五 廢家
- 十六 絕家
- 十七 轉住
- 十八 戶籍訂正

番 號	出生年月日		族	籍	等親區別	父 姓 名	母 姓 名	出生者等 親區別	姓	名	
	出生月日	出生日									
第 一 號	何月何日	何月何日	何村何番地士族	何	妻	何	何	某	二	男何	某
第 二 號	何月何日	何月何日	何村何番地平民	何某長男何	婦	某	某	某何某長女 孫			某
第 三 號	何月何日	何月何日	何村何番地平民	何某妹				某 私生子			某
第 四 號	何月何日	何月何日	何府何區何町 何村何番地平民	何某弟	全弟妻	何	何	某何某長男 甥	何	何	某

登記目録書式第二
明治何年加籍目録
本籍人管外出生之部

○人 民

第 號	番 號	拾上月日	拾上地名	推測生年月	姓	第 號	何月何日	何縣何區何町	何村何番地士族	妻	何	某	第 號	何月何日	何縣何區何町	何村何番地士族	何某叔母	某	私生子	某
		何月何日	何村何番地	何年何月	何		何	何月何日	何縣何區何町	何村何番地士族	何某叔母	某		某	何月何日	何縣何區何町	何村何番地士族	何某叔母	某	某

登記目錄書式第三
明治何年加籍目錄 棄兒之部

登記目錄書式第四
明治何年加籍目錄 無籍者就籍之部

第 號	番 號	就籍願濟	就籍屆出	就籍地名	生年月日	姓	第 號	何月何日	何縣何區何町	何村何番地平民	何某婦長男	某	第 號	何月何日	何縣何區何町	何村何番地平民	何某長男	某
		何月何日	何月何日	何村何番地	何年何月何日	何		何月何日	何縣何區何町	何村何番地平民	何某婦長男	某		何月何日	何縣何區何町	何村何番地平民	何某長男	某

登記目錄書式第五
明治何年加籍目錄 他府縣ヨリ入籍之部

○人民

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
何縣何郡何村何番地ヨリ附籍ス	何縣何郡何村平民何某和續人離縁ニ付復籍ス	何府何區何町何番地平民何某引受棄兒ヲ更ニ引受ク	何府何區何町何番地平民何某引受棄兒何某ヲ引取ル何月何日何地何裁判所裁判言	何縣何郡何村何番地平民何某二女私生子ヲ引受ク	何縣何郡何町何番地士族何某叔母亡父某二女ヲ實母ニ付引受ク	何縣何郡何町何番地士族何某叔母亡父某二女ヲ實母ニ付引受ク
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何村何番地士族	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地士族
亡父某長男	何某弟 亡父某三男	何某引受棄兒	何某三男	何某子	何某母	何某母
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
某	某	某	某	某	某	某

第 號	全	全	第 號	全	第 號	第 號
何縣何郡何村何番地ヨリ附籍ス		何年何月何日何縣何區何町何番地平民何某二女ヲ娶ル	何府何區何町何番地へ分家之處復歸入籍ス	何年何月何日何縣何郡何村何番地士族何某二女ヲ娶ル	何府何區何町士族何某二男某分家入籍ス	何縣何郡何村何番地士族何某長女ヲ母某離婚ニ付携帶入籍ス
何月何日	全	全	何月何日	全	何月何日	何月何日
何村何番地士族	全	全	何村何番地士族	全	何村何番地平民	何村何番地平民
亡父某長男	同人長男 孫	二男某妻 婦	何某二男	妻		何某孫 母某長女
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
某	某	某	某	某	某	某

全	全	第	第	第	全
		號	號	號	
		何縣何區何町何番地ヨリ轉 住入籍ス	何府何郡何村何番地平民何 ヲ再興ス	何縣何區何町何番地士族何 某附籍之處別立入籍ス	
全	全	何月何日	何月何日	何月何日	全
全	全	何月何日	何月何日	何月何日	全
		何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	
		長女	妻	前戶主某	亡父某三男弟
何年何月何日	何年何月何日	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某

番	第	第	番	登記目錄書式第六 明治何年加籍目錄 他郡區ヨリ入籍之部	
號	號	號	號	登記目錄書式第七 明治何年加籍目錄 他戶長役場管内ヨリ入籍之部	
死亡年月日	何月何日	何月何日	死亡月日	登記目錄書式第八 明治何年除籍目錄 本籍人管内死亡之部	
發送月日	何月何日	何月何日	死亡届月日		
死亡届書	何村何番地平民	何村何番地平民	族	籍	
受領月日	何村何番地士族	何村何番地士族	籍	等親區別	
死亡地名族	何	何某母	姓	姓	
籍等親區別	何		姓	姓	
姓名	某	某	姓名	姓名	

登記目錄書式第九
明治何年除籍目錄
本籍人管外死亡之部

第 號 日	何年何月何 日	何月何日	何府何區何町	何村何番地平民	何某二男	何	某
-------------	------------	------	--------	---------	------	---	---

登記目錄書式第十
明治何年除籍目錄
失踪者及重籍者除籍之部

番 號	除籍月日	除籍事	故	族	籍等親區別	姓	名
第 號	何月何日	何年何月何日 何月何日 滿八十歳ニ至ルニ 付除籍	八十一歳何々月何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍	何村何番地平民	何某又從弟	何	某
第 號	何月何日	何年何月何日 何月何日 滿八十歳ニ至ルニ 付除籍	何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍	何村何番地平民	何某	何	某
第 號	何月何日	何年何月何日 何月何日 滿八十歳ニ至ルニ 付除籍	何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍	何村何番地平民	何某	何	某
第 號	何月何日	何年何月何日 何月何日 滿八十歳ニ至ルニ 付除籍	何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍	何村何番地平民	何某	何	某

登記目錄書式第十一
明治何年除籍目錄
他府縣へ送籍之部

番 號	送籍事	故	族	籍等親區別	姓	名
第 號	何府何區何町何番地平民何	何月何日	何村何番地平民	何某妹 父某三女	何	某
第 號	何縣何郡何村何番地土族何	何月何日	何村何番地平民	何某長女	何	某
第 號	何縣何郡何村何番地土族何	何月何日	何村何番地平民	何某二男	何	某
第 號	何縣何郡何村何番地平民何	何月何日	何村何番地平民	何某弟 父某四男	何	某
第 號	何縣何區何町土族何某ト父	何月何日	何村何番地土族	何某甥 弟某長男	何	某
第 號	何府何郡何村何番地土族何	何月何日	何村何番地土族	何某叔母 亡祖父某三女	何	某

○人民

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
何府何郡何村何番地平民何 某子ト爲ル	何縣何郡何村何番地平民何 某三男ナルト發覺シ何年何 月何日何地裁判所裁判言渡 ニ付引渡ス	何縣何郡何村何番地平民何 某更ニ引受ク	何縣何郡何村何番地平民何 某二女離婚ニ付送籍ス	何縣何郡何村何番地平民何 某三女離婚ニ付送籍ス	何縣何區何町何番地平民何 某伯父離婚ニ付送籍ス	何縣何郡何村何番地平民何 某孫母某離婚ニ付携帶送籍 ス
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民	何村何番地平民
何某二女某 私生子	何某引受 棄兒	何某引受 棄兒	何某妻	何某妻	何某相續人 實兄 亡父某二男	何某長女
何	何	何	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某	某

第 號	第 號	全	全	第 號	全	第 號
何府何郡何町何番地平民何 送籍ス	何縣何郡何町何番地士族何 某二男分家之處復歸送籍ス			何縣何郡何町何番地士族何 某方へ附籍ス		
何月何日	何月何日	全	全	何月何日	何月何日	何月何日
何村何番地士族	何村何番地平民	全	全	何村何番地平民	全	全
何某二男	妻	妻	妻	長男	亡父某四男 弟	何
何	何	何	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某	某

登記目錄書式第十二
 明治何年除籍目錄
 他郡區へ送籍之部
 登記目錄書式第十三

第 號	第 號	第 號	全	全
何府何郡何村何番地へ別立 送籍ス	何府何區何町何番地絶家何 氏ヲ再興ス	何府何郡何村何番地へ轉住 送籍ス	何年何月何日何縣何郡何 村士族何某姉ヲ娶ル	
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何村何番地士族	何村何番地平民	何村何番地士族		
何某附籍平民	何某三男		妻	長女
何		何		
某	某	某	某	某

明治何年除籍目錄
 他戸長役場管内へ送籍之部
 登記目錄書式第十四
 明治何年管内異動目錄
 管内送入籍之部

番 號	第 號	第 號	第 號	第 號
送入籍願 濟月日 送入籍届出 月日	何町何番地平民何某二女ヲ 貰受ク	何町何番地平民何某伯父ヲ 貰受ク	何町何番地士族何某長男某 長女ヲ娶ル	何町何番地士族何某二女ヲ 貰受ク
族	何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地士族
籍等親區別	何某長男縁 女	何某夫	何某弟妻	何某養女
姓	何	何		
名	某	某	某	某

廿三
年八
號令
第
以
テ
改
正
ナ
リ

第 號	全	第 號	第 號	第 號	第 號
何町何番地平民何某妹某私 生子ヲ弟某子トシテ引受ク		何町何番地平民何某祖母 實父母ニ付引受ク	何町何番地平民何某廢戶ノ 付携帶ス	何町何番地平民何某叔父ヲ 實受ク	何年何月何日何縣何郡何 村何番地平民何某長女 娶ル
何月何日	全	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何町何番地平民	全	何町何番地土族	何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地土族
何某姪 弟某子	父某妻 母	何某父	何某養孫 養子某長男	何某相續人 實弟亡父何 某三男	養某妻 婦
何	何	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某

第 號	全	全	第 號	第 號	第 號	第 號
何町何番地へ分家ノ處復籍 ス		何年何月何日何縣何郡何 町何番地平民何某三女ヲ 娶ル	何町何番地平民何某弟分家 ス	何町何番地土族何某養女離 縁ニ付復籍ス	何町何番地土族何某二男某 妻離婚ニ付復籍ス	何町預リノ處引受ク
何月何日	全	全	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何町何番地土族	全	全	何町何番地平民	何町何番地土族	何町何番地土族	何町何番地平民
何某叔父	長女	妻		何某二女	何某妹	何某引受桑 兒
何			何			何
某	某	某	某	某	某	某

○人
民

全	第 號	全	第 號	番 號	全	第 號	全	第 號	全	第 號	全	第 號
	何町何番地ヨリ附籍ス		何町何番地平民何某へ附籍 ノ處離籍ス	何年何月何日何府何郡何 村何番地土族何某長女ヲ 娶ル		何町何番地土族何某二男絶 家何氏ヲ再興ス		何町何番地ヨリ轉住ス				
全	何月何日	全	何月何日	何月何日	全	何月何日	何月何日	何月何日	全	何月何日	全	何月何日
	何町何番地土族	全	何町何番地平民	何町何番地平民		何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地平民		何町何番地土族	全	何町何番地土族 何某附籍平民
									亡父某妻 母		妻	亡父某二女 妹
	何		何	何		何	何	何		何		何
	某		某	某		某	某	某		某		某

登記目録書式第十五
明治何年管内異動目録
異動之部

全	第 號	全	第 號	番 號	全	第 號	全	第 號	全	第 號	全	第 號
	何町何番地平民		何町何番地土族	何町何番地土族		何町何番地平民		何町何番地平民		何町何番地平民		何町何番地平民
全	何月何日	全	何月何日	何月何日	全	何月何日	何月何日	何月何日	全	何月何日	全	何月何日
	何某養子		何某長男	何某長男		何某養子	何某養子	何某養子		何某養子		何某養子
	何		何	何		何	何	何		何		何
	某		某	某		某	某	某		某		某

廿五年訓令第
五十一號ヲ以テ
家族ノノチ第
二欄「公居」ノ
字ヲ削除ス

○人 民

第 號 舊 姓 何 ヲ 原 姓 ニ 復 ス	第 號 舊 稱 名 ヲ 改 ム	第 號 失 踪 ノ 處 何 月 何 日 何 縣 何 郡 何 村 ニ 現 在	第 號 失 踪 ノ 處 何 月 何 日 復 跡	第 號 何 年 何 月 何 日 ヨリ 失 踪	第 號 棄 兒 ノ 處 年 齡 滿 十 三 歲 ニ 達 シ タル ヲ 以 テ 新 ニ 一 戸 ヲ 立 ツ	第 號 母 某 父 某 ト 結 婚 ニ 依 リ 嫡 出 ト 爲 ル
何月何日 何月何日	何月何日 何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何町何番地士族	何町何番地平民	何町何番地平民 何某弟	何町何番地平民 何某二男	何町何番地士族 何某叔父	何町何番地平民	何町何番地平民 何某子
何 某	何 某	何 某	何 某	何 某	何 某 推測何年何月生	何 某

二八八十三

第 號 廢 嫡 ノ 處 事 故 解 除 ニ 付 復 立 ス	第 號 廢 嫡	第 號 前 戶 主 父 某 失 踪 シ 何 箇 年 經 過 ニ 依 リ 相 續 ス	第 號 父 某 死 亡 跡 相 續 ス	全	第 號 父 某 退 隱 シ 長 男 某 相 續 ス	第 號 戶 主 ヲ 廢 ス
何月何日 何月何日	何月何日 何月何日	何月何日 何月何日	何月何日 何月何日	全	何月何日	何月何日 何月何日
何町何番地士族 何某長男	何町何番地士族 何某長男	何町何番地平民	何町何番地平民	全	何町何番地士族 父	何町何番地平民
何 某	何 某	何 某	何 某	何 某	何 某	何 某

二八八十三

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
平民ノ處何月何日士族へ編入セラル	士族ノ處平民ニ歸入ス	廢家ス	死亡後六箇月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日絶家ト爲ル	失踪ノ處年齢八十歳ニ達シ除籍シタル後六ヶ月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日絶家ト爲ル	何町何番地ヨリ移轉ス	戸主トノ續柄何ハ何ノ錯誤ニ付訂正
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何町何番地士族	何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地平民	何町何番地士族	何町何番地平民	何町何番地平民
					何某又從弟	何某
何	何	何	何	何	何	何
某	某	某	某	某	某	某

第 號	第 號
生年月日ニ付訂正	生年月日ニ付訂正
何月何日	何月何日
何町何番地士族	何町何番地平民
何某二男	何某三女
何	何
某	某

戸籍登記書式附録
送籍狀書式第一
全戸送籍狀

割。第 號 本標號ハ登記目録ノ番號ヲ用井役場役所印ヲ以テ登記目録ト割印スヘシ

何縣何郡何村何番地	平民	前戸主 亡父何某
何年何月何日相續、何年何月何日願濟改名、何年何月何日願濟復姓		
何年何月何日何縣何郡何村平民何某二女入籍	戶主	亡父某長男
	主	舊姓號
	母	何
		舊名
		何年何月何日生
		亡父某妻
		何年何月何日生
		某
		何年何月何日生

○人民

何年何月何日何府何區何町士族何某長女入籍

右全戸何名御所轄何村へ轉住ノ儀申出ニ付及送籍候也

妻
何年何月何日生
某

年月日

何縣何郡(區)町(村)(外何ヶ村)
區(戸)長 何 某 印

何府縣何郡區何町林
區(戸)長何某殿

一區戸長氏名詳ナラサルトキハ區役所戸長役場宛ニ作ルモ妨ケナシ以下倣之
送籍狀書式第二
人別送籍狀

割印
第 號

何縣何郡區何町村何番地

士族

戸主氏名

何年何月何日何府何區何町士族何某養子離縁ニ付復歸

弟
亡父某二男
何 某
何年何月何日生

右ノ者御所轄何町村何番地士族何某養子ニ遣ハシ候旨申出ニ付及送籍候也

年月日

何縣何郡(區)町(村)(外何ヶ村)
區(戸)長 何 某 印

何府縣何郡區何町村

區(戸)長何某殿

入籍報知書書式第一

第 號

元何縣何郡何町士族

何 某

家族

何 某

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ今日何日何村何番地へ入籍取扱候此段及報知候也

年月日

何縣何郡(區)町(村)(外何ヶ村)

區(戸)長 何 某 印

何府縣何郡區何町村

○人 民

區(戶)長何某殿
入籍報知書書式第二

第 號

元何府何區何町何番地
平民何某二男

何 某

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ昨何日何町何番地土族何某養子ニ入籍取扱
候此段及報知候也

年月日

何府縣何郡區何町村

區(戶)長何某殿

○訓令第十七號

明治十九年十一月二十六日

郡區町村

本年內務省令第二十二號戶籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ郡役所ニ納ムル所ノ戶
籍簿副本及諸屆書ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スルニ及ハス又寄留ニ關ス
ル屆書ハ戶長役場及區役所ニ保存スヘシ

○訓令第二十二號

明治二十年三月三日

郡區町村

戶籍ニ關スル諸屆書ハ左ノ項目ニ依リ取扱フヘシ

- 一 明治十九年內務省令第十九號第十五條但書ニ依リ本籍外ノ寄留者ヨリ差出シタ
ル屆書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届ト合綴スヘシ但出產ニ於テハ別ニ入寄
留届ヲ爲サシムルニ及バズ
- 二 同令第六條及入寄留届書第七條ノ寄留者退去屆書及第八條ノ寄留者復歸屆書ハ
類集編綴ス可シ
- 三 同令第二十二號第十五條ニ依リ戶長役場區役所ヨリ郡役所又ハ縣廳ニ送付スル
諸屆書ハ加籍除籍異動ノ三種ニ分綴ス可シ郡役所ニ於テハ每町村限リ便宜編輯
ス可シ

○縣令第五十一號

明治廿年六月一日

郡區內寄留者届出方ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 郡區內同町村又ハ他町村ニ寄留シタル時自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地
借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其
地區戶長ニ届出且他町村ニシテ戶長役場所轄ノ異ナルモノハ本籍地區戶長ヘ全
時ニ屆書ヲ發送ス可シ
- 一 寄留地其去時自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家

○人民

主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地區戸長ニ届出可シ
一 他戸長役場所轄町村ニ寄留者本籍地ニ歸リタル時ハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ其地區戸長ニ届出可シ

○訓令第四十七號 明治廿年六月一日 郡區町村

郡區内寄留者ハ明治十九年(十月)内務省令第二十二號第二十條乃至二十四條ニ準シ便宜寄留簿ヲ編製シ其登記ハ全年(十一月)訓令第十五號戸籍登記書式中出入寄留簿登記書式ニ依ル可シ

○訓令第六十三號 明治二十年六月三十日 郡區

自今有位者(華族ヲ除ク)改姓名貫族替又ハ死去セシ時ハ其願届ヲ取扱タル郡區長ヨリ直ニ宮内省華族局へ通牒ス可シ

○縣令第六十二號 明治二十一年七月二十八日

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ管理スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却若クハ交換等ヲ爲サントスルハ不動産ハ自今都テ所管裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

○訓令第十五號 明治二十四年三月十三日 市役所 町村役場
戸籍ニ關スル諸願ニ添附ノ戸籍寫ハ市町村長ニ於テ戸籍簿ニ照シ證印ス可シ

●農商工

○甲第四百四號 明治十五年八月二十四日

牛馬羊豚種類名稱改正相成候ニ付明治十四年(五月)甲第八十九號布達牛馬羊豚籍調査手續更ニ左ノ通相定メ候條此旨布達候事

牛馬羊豚籍調査手續

第一條 牛馬羊豚籍ハ戸長調査シ一村限リ其簿冊ヲ役場ニ備置クヘシ

第二條 牛馬籍ハ第一號羊豚籍ハ第二號離形ニ準シ持主ヨリ増減届出ノ時々之ヲ加除シ毎年十二月三十一日現在高ヲ調査スヘシ

第三條 牛馬羊豚ヲ所有スル者ハハ戸長役場ニ於テ第三號離形ノ如ク鑑札ヲ製シ一頭毎ニ持主ヘ下附スヘシ
但持主ハ鑑札料壹錢ツ、戸長役場へ納ムヘシ

第四條 牛馬羊豚ノ増減ハ日數五日以内持主ヨリ戸長役場ニ申出々生及ヒ買入讓請

カハ鑑札ヲ請ケ斃死屠殺賣却讓渡ハ鑑札ヲ返上スヘシ
第五條 賣買讓渡ハ他郡村等總テ戸長所轄外ニ係ルハ第四號離形ノ如ク送狀ヲ持主ニ下附シ之ヲ添へ買受讓受人ニ渡スヘシ

但賣渡讓渡人ハ送狀請求ノ際手續料金壹錢ツ、戸長役場へ收ムヘシ

第六條 買受讓受人ハ本村戸長役場へ届出方節送狀ヲ添ヘシ

本令中手數
關スル
町村
以後
カ
ナ
シ
カ
ナ
シ

○農商工

第七條 戶長ニ於テ毎年十月三十一日現在高野調查終リタル上ハ牛馬羊豚ノ頭數及増減第第五號雛形ノ如ク製表ヲ掲ケ籍帳ト共ニ一月十五日限リ所轄郡區役所ニ出不スルシメテ送ルベシ

第八條 郡區役所ニ於テハ籍帳ノ合計ヲ調査シ戶長ノ調査表ト照合シ籍帳ハ檢印下減シ調査表ハ取摺置キ郡區總計表(第五號表)ヲ作リ二月一日限リ縣廳ニ出スヘシ

第九條 牛馬羊豚ノ病ニ罹リタルホハ持主ヨリ戶長ニ届出獸醫ノ治療ヲ乞ヒ傳染病ト視認スルホハ速ニ郡區役所ヘ申出郡區役所ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

第十條 傳染病ニ罹リタルモノハ其病名及斃死等ノ區別其時々帳簿ニ明細記載シ置キ第五號表雛形末葉ノ例ニ倣ヒ取調ヘ差出スヘシ

第一號

明治何年 牛馬羊豚 籍帳 改帳

○何郡區何町村馬籍改帳

○農商工

明治何年 戶長 役場

役戶

○何郡區何町村何某ヨリ買受

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受

○何郡區何町村何某ヨリ買受
繁殖用トハ即繁殖ヲ圖ル爲メニ使用ニ供セス飼養スルモノナラバ
 何ノ某

○明治何年何月何國何郡何村何某ヘ賣却鑑札返納
戶長ノ印以下減スルモノヲ總テ全シ
 持主

○何郡區何町村何某ヨリ買受
乳用トハ特ニ搾乳ノ爲ニ飼養スルヲ云フ
 何ノ某

○何郡區何町村馬籍帳全ム乳用ヲ除ク
 何ノ某

○何郡區何町村何某ヨリ買受
 持主

○何毛何歳
全上
 何ノ某

○明治何年若牛ニ使何駒場ニ於テ何郡何某ヘ鑑賣鑑札返納
 持主

○何郡區何町村何某ヨリ買受
全上
 何ノ某

○明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
力用トハ特ニ物貨運搬乘料車用等ニ役スルヲ云フ
 持主

○何郡區何町村何某ヨリ買受
力用トハ特ニ物貨運搬乘料車用等ニ役スルヲ云フ
 何ノ某

○農商工

第七條 戶長は於て毎年十二月三十一日現在高き調査終りタル上ハ牛馬羊豚ノ頭數及増減等ヲ第五號雛形ノ如ク製表ヲ掲ケ籍帳ト共ニ一月十五日限り所轄郡區役所ニ出不外シニ提出スルベシ

第八條 郡區役所ニ於テ籍帳ノ合計ヲ調査シ戶長ノ調査表ト照合シ籍帳ハ檢印下渡シ調査表ハ取摺置キ郡區總計表(第五號表)ヲ作り二月二日限り縣廳ニ出スヘシ

第九條 牛馬羊豚ノ病ニ罹リタル牛馬ハ持主ヨリ戶長ニ届出獸醫ノ治療ヲ乞ヒ傳染病ト視認スル牛ハ速ニ郡區役所ヘ申出郡區役所ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

第十條 傳染病ニ罹リタル牛馬ノ其病名及斃死等ノ區別其時々帳簿ニ明細記載シ置キ第五號表雛形末葉ノ例ニ倣ヒ取調ヘ差出スヘシ

第十一條 第一號 明治何年三月三十一日現在ノ牛馬羊豚ノ頭數

第十二條 明治何年三月三十一日現在ノ牛馬羊豚ノ頭數

第十三條 明治何年三月三十一日現在ノ牛馬羊豚ノ頭數

〇農商工

役戶

乳牛ト稱切以下做之

〇飼内種ノ部ハ乳牛ニ限リ

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受
持主 何ノ某

〇農商工

○明治何年何月屠殺鑑札返納

馬籍帳ニ屠殺ヲ除ク

全年所持ノ牝ヨリ出生

一牝 何毛何歳

〔費用トハ専ラ耕作ニ役スルヲ云フカ用費用相兼ヌルモノハ宜ク其重ナル方ニ從フヘシ〕

以下總テ全シ

全年何村何某ヨリ買受

一牝 何毛何歳 全上

○明治何年何月斃死調査濟鑑札返納

明治何年何那何村ヨリ買入

一牝 何毛何歳 繁殖用

明治何年當村ニテ出生何ノ某ヨリ買入

一全 何毛何歳 全

○明治何年何月屠殺鑑札返納

持主

持主

持主

全

預人

馬籍帳ニハ屠殺ヲ除ク

明治何年産牛組合醜集金ヲ以テ何國何那何村何某ヨリ買入

一牝 何毛何歳 全

明治何年何月何駒場ニ於テ何村何某ヨリ買入

一牝 何毛何歳 力用

○明治何年何月何國何那何村何某へ賣却鑑札返納

全年何月何駒場ニ於テ全上

一牝 何毛何歳 農用

全年何月何駒場ニ於テ全上

一牝 何毛何歳 繁殖用

明治何年何月出生

一牝 何毛何歳 農用

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

何ノ某

○明治何年何駒場於于何郡何村何某へ糶賣鑑札返納
全年何月出生出
全

一牡 何毛何歳 空
何 某

○明治何年何駒場於于何郡何村何某へ糶賣鑑札返納
全年何月出生出
全

一牡 何毛何歳 空
何 某

○明治何年何駒場於于何郡何村何某へ糶賣鑑札返納
全年何月出生出
全

一牡 何毛何歳 空
何 某

○明治十四年十二月三十日調査現在

合牛數何十頭内 牝 〇何十頭

馬數何十頭内 牝 〇何十頭

二歳以上 〇何頭 内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

○農商工

明治十五年

何國何郡何村何ノ某ヨリ買受

一牡 何毛何歳 力用 持主 何ノ某

何村何某ヨリ買受 持主

一牡 何毛何歳 農用

○明治何年何郡何村何某へ買却鑑札返納

何郡何村町何某ヨリ産馬組合醸集金ヲ以テ買受

預リ人

一牡 何毛何歳 繁殖用

何駒場ニ於テ何村町何某ヨリ買受

持主

何ノ某

一牝 何毛何歳 繁殖用

所有二歳牝何駒場へ牽出直ニ糶取ル

全

何ノ某

一牝 何毛何歳 乳用

馬籍帳ニハ乳用ヲ除ク

何ノ某

何月出生

全

一牡 何毛何歳 農用

何ノ某

何月出生

持主

一牡 何毛何歳 方用

何ノ某

何月出生

全

一牡 何毛何歳 農用

何ノ某

○何月斃死検査済鑑札返納

何月出生

全

一牝 何毛何歳 全

何ノ某

明治十五年十二月三十一日調査現在

合馬數何十何頭 内牝何十何頭

二歳以上○何十頭 内牝○何頭

内 當 歳何 頭 内牝○何頭

内譯 何頭 内牝○何頭

○何頭 内牝○何頭 明治十五年買入並出生

内

○何頭 內 牝 牝 ○何頭 買入

二歲以上

○何頭 內 牝 牝 ○何頭 出生

當 歲

外

○何頭 內 牝 牝 ○何頭

明治十五年賣却及屠殺斃死

內

二歲以上 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

當 歲 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

內

○何頭 內 牝 牝 ○何頭

賣却

二歲以上 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

當 歲 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

○何頭 內 牝 牝 ○何頭

屠殺

三歲以上

「馬籍報ニハ屠殺ヲ除ク」

○何頭 內 牝 牝 ○何頭

斃死

二歲以上 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

當 歲 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

差引何頭

內

二歲以上 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

當 歲 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

此內譯

力用 ○何頭 內 牝 牝 ○何頭

內

二歲以上 ○何頭

內 牝 牝 ○何頭

○農商工

役戸

札ト押切以下做之

當 一歳〇何頭 内 牝〇何頭
 農用〇何頭 内 牝〇何頭
 内
 二歳以上〇何頭
 當 歳〇何頭
 繁殖用〇何頭 内 牝〇何頭
 二歳以上
 乳用〇何頭 牝
 二歳以上
 馬籍帳ニハ乳用ヲ除ク
 明治十六年
 以下之ニ倣ヒ増減ヲ加除シ置キ年々十二月三十一日現在ノ合計ヲ付スヘシ
 外種ノ部

明治何年何駒場ニ於テ何郡何村何某ヨリ糶取 持主
 一 一回雜種牝何毛何歳 力用 何 某
〔一回雜種トハ内國種ノ牝ニ純 糶種ノ牝ヲ配シ得タル者〕
〔力用トハ特ニ物貨運搬乘用車用等ニ役スルチ云フ〕
 明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受 全
〔戸長ノ印以下或スルモノノ總テ全シ〕
 一 二回雜種牝何毛何歳 農用 何 某
〔二回雜種トハ一回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ〕
〔農用トハ耕作ニ役スルチ云フ 力用農用相兼ヌルモノハ宜ク 其重ナル方ニ從フヘシ〕
 明治何年拜借 預リ人
 一 三回雜種牝何毛何歳 繁殖用 何 某
〔三回雜種トハ二回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ〕
〔繁殖用トハ即繁殖ヲ圖ル爲メニ使用ニ供セス飼養スルモノ〕
 明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受 持主
〔馬籍ニ乳用ヲ除ク〕
 一 四回雜種牝何毛何歳 乳用 何 某
〔四回雜種トハ三回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ〕
〔乳用トハ特ニ搾乳ノ爲ニ飼養スルモノ〕
 馬籍ニハ屠殺ヲ除ク
 〇明何年何月屠殺鑑札返納

農商工

三四

明治何年何郡何村町何某ヨリ買入

持主

一五回雜種牝何毛何歳 力用

何ノ某

「五回雜種トハ四回雜種ノ牝ニ
洋種ヲ配シ得タルモノ」

明治何年何月何郡何村何某へ賣却鑑札返納

明治何年何國何郡何村町何某ヨリ買受

持主

一改良種牝何毛何歳 乳用

何ノ某

「改良種トハ六回ニ至リ
タルヲ云フ」

明治何年何郡何村町何某ヨリ買入

持主

「テボン種ハ馬籍帳ニ不用
テボン種ニ回雜種トハ牝ニ
此ニテボン種ノ牝ヲ配シテ得タルモノノ類ヲ云フ」

一テボン種一回雜種牝何毛何歳 農用

何ノ某

五回迄前ニ全シ

明治何年何國何村町何某ヨリ買入

持主

一テボン種改良種牝何毛何歳 力用

何ノ某

「テボン種改良種トハ六回ニ至リタルヲ云フ」

○明治何年何月幾死検査済鑑札返納

明治何年何郡何村町何ノ某ヨリ買入

持主

一和洋一回雜種牝何毛何歳 乳用

何ノ某

「和洋一回雜種トハ内國種ノ牝ニ血統ノ正確ナ
ラサル洋種ノ牝ヲ配シテ得タルモノヲ云フ」

五回迄前ニ全シ

明治何年何郡何村町何某ヨリ買入

持主

一和洋改良種牝何毛何歳 繁殖用

何ノ某

「和洋改良種トハ六回ニ至リタルヲ云フ」

○明治何年何月何郡何村何某へ賣却鑑札返納

明治何年何郡何村町何某ヨリ買入

持主

一退却雜種牝何毛何歳 力用

何ノ某

「退却雜種トハ一回雜種ノ牝ニ内國種ノ牝ヲ配シ又ハ二回雜
種ノ牝ニ一回雜種ノ牝ヲ配シテ得タルモノノ類ヲ云フ」

明治何年何月何母何々ヨリ出生

持主

一何回雜種牝常歳 力用

何ノ某

○明治何年何月何駒場ニ於テ何國何郡何村何某へ賣却鑑札返納

何年何月何母何ヨリ出生

全

一デボン種何回雜種牡當歲 農用

何ノ某

○全上

何年何月父何々ヨリ出生

持主

一改良種牝何毛當歲 繁殖用

何ノ某

○明治何年何月斃死検査濟鑑札返納

何年何月父何々ヨリ出生

全

一退却雜種牝何毛當歲 繁殖用

何ノ某

○明治何年何月何駒場ニ於テ持主糶取ニ付買入ノ部ニ付替鑑札引替渡ス

明治十四年十二月三十一日調査現在

合牛數何十頭 内牝〇何頭

内 二歲以上〇何頭 内牝〇何頭

當 歲〇何頭 内牝〇何頭

内譯

一回雜種〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内 牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内譯

力 用〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内 牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

農 用〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内 牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

繁殖用〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内 牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

内 牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

牝〇何頭 内當二歲以上〇何頭

乳用〇何頭

牝二歳以上

二回雜種〇何頭

内二歳以上〇何頭

牝〇何頭

内二歳以上〇何頭

内牝〇何頭

内二歳以上〇何頭

内譯前ニ全シ

三回雜種

内譯前ニ全シ

四回雜種

内譯前ニ全シ

五回雜種

内譯前ニ全シ

改良種

内譯前ニ全シ

デボン種一回雜種

内譯前ニ全シ

デボン種馬籍帳ニハ不用

全一回雜種

内譯前ニ全シ

全上

全三回雜種

内譯前ニ全シ

全上

全四回雜種

内譯前ニ全シ

全上

全五回雜種

内譯前ニ全シ

全上

全改良種

内譯前ニ全シ

全上

和洋一回雜種

内譯前ニ全シ

全二回雜種

内譯前ニ全シ

全三回雜種

内譯前ニ全シ

全四回雜種

〇農商工

内譯前ニ全シ

全五回雜種

内譯前ニ全シ

全改良種

内譯前ニ全シ

退却雜種

内譯前ニ全シ

明治十五年

何國何郡何町何某ヨリ買入

一何回雜種牝何毛何歳

何郡何村何某ヨリ買入

一何々何回雜種牝何毛何歳

何郡何町何某ヨリ買入

一改良種牝何毛何歳

何郡何村何市場ニ於テ何村何某ヨリ買入

一和洋何回雜種牝何毛何歳

明治何年何月何何々ヨリ出生

一退却雜種牝何毛何歳

明治何年何月何何々ヨリ出生

一何回雜種牝何毛當歳

明治何年何月何何々ヨリ出生

一何回雜種牝何毛當歳

明治何年何月何何々ヨリ出生

一和洋何回雜種牝何毛當歳

明治何年何月何何々ヨリ出生

一改良種牝何毛當歳

以下總テ之ニ倣フ

明治十五年十二月三十一日調査現在

合牛馬數何十何頭

内 何十頭

内 何十頭

二歳以上何頭

内 何頭

當 何頭

○農商工

持	持	持	持	持	持
主	何	主	何	主	何
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
某	某	某	某	某	某

持	持	持	持	持	持
主	何	主	何	主	何
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
某	某	某	某	某	某

內 何十頭 內 何頭 明治十五年買入並出生

內 何頭 內 何頭 買入

內 何頭 內 何頭 出生

外 何頭 內 何頭 明治十五年賣却及屠殺斃死

內 二歲以上 何頭 內 何頭

當 歲 何頭 內 何頭

內 何頭 內 何頭 賣却

內 二歲以上 何頭 內 何頭

何頭 內 何頭 屠殺

二歲以上

何頭 內 何頭 斃死

內 二歲以上 何頭 內 何頭

當 歲 何頭 內 何頭

差引何頭 減增

內 二歲以上何頭 內 何頭

當 歲何頭 內 何頭

此譯

一回雜種 何頭 內 何頭

內 牝 何頭 內 何頭

內 牝 何頭 內 何頭

何頭 內牝 何頭 買入

何頭 內牝 何頭 出生

何頭 內牝 何頭 出生

當歲

外 何頭 內牝 何頭 賣却

何頭 內牝 何頭 賣却

內 二歲以上 何頭 內牝

當 歲 何頭 內牝

何頭 內牝 何頭 屠殺

何頭 內牝 何頭 屠殺

內 二歲以上 何頭 內牝

當 歲 何頭 內牝

何頭 內牝 何頭 斃死

何頭 內牝 何頭 斃死

內 二歲以上 何頭 內牝

當 歲 何頭 內牝

二回雜種何頭

內譯外書共前ニ全シ

三回雜種

內譯外書共前ニ全シ

四回雜種

內譯外書共前ニ全シ

五回雜種

內譯外書共前ニ全シ

改良種

內譯外書共前ニ全シ

デボン種一回雜種

內譯外書共前ニ全シ

全一回雜種

內譯外書共前ニ全シ

全三回雜種

內譯外書共前ニ全シ

全四回雜種

內譯外書共前ニ全シ

内譯外書共前ニ全シ
 全五回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全改良種
 内譯外書共前ニ全シ
 和洋一回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全二回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全三回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全四回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全五回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 退却雜種
 内譯外書共前ニ全シ

戸長役場

明治十六年
 以下倣之増減ヲ加除シ置キ年々十二月三十一日現在ノ合計ヲ付スヘシ

第二號

明治何年ヨリ
 何郡何町羊籍帳
 何區何村豚籍帳

鑑札ノ押切以下倣之

内種ノ部

羊籍帳ニハ内外種ノ區別ニ及ハス

持主

明治何年買入
 一牝豚 何歳

何ノ某

明治何年買入

全

一牡豚 何歳

何ノ某

戸長役場

○明治何年何月何國何郡何町何ノ某へ賣却鑑札返納
 「戸長ノ印以下倣之」

○農商工

明治何年買入

一全 何歲

明治何年買入

一全 何歲

○明治何年何月屠殺鑑札返納

明治何年買入

一牝豚 何歲

○明治何年何月斃死檢查濟鑑札返納

明治何年買入

一牝豚 何歲

○明治何年何月斃死檢查濟鑑札返納

何年出生

一牝豚 當歲

何月出生

一牝豚 當歲

明治十四年十二月三十一日現在

合豚數何頭 內牝〇何頭 牝〇何頭

持主

何

全

何

持主

何

持主

何

持主

何

持主

何

全

何

某

某

某

某

某

某

某

某

某

某

某

某

某

內

二歲以上〇何頭

當 歲〇何頭

明治十五年

買入

一牝豚 何歲

○明治何年何月屠殺鑑札返納

全

一牝豚 何歲

何月出生

一牝豚 當歲

○明治何年何月何國何郡何町何村何某へ買渡鑑札返納

何月出生

一牝豚 當歲

明治十五年十二月三十一日調查現在

合豚數何頭 內牝〇何頭 牝〇何頭

持主

何

全

何

全

何

持主

何

持主

何

某

某

某

某

某

某

某

某

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

○何頭 內 牝牝○何頭 明治十五年買入並出生

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

內 何頭 內 牝牝○何頭 買入

內 二歲以上 ○何頭
當 歲 ○何頭

○何頭 內 牝牝何頭 出生

外 ○何頭 內 牝牝何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

○何頭 內 牝牝○何頭 賣却

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

○何頭 內 牝牝○何頭 屠殺

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

外種ノ部 ○何頭 內 牝牝○何頭 斃
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

鑑札ト押切以下做之

役戸

雜種ノ區別説明ハ牛馬籍帳ト全シキテ以テ略ス

明治何年買入	持主	何ノ	某
一 一回雜種牝豚 何歳			
全			
一 二回雜種牝豚 何歳		何ノ	某
明治何年拜借	預リ人	何ノ	某
一 三回雜種牝豚 何歳			
全			
一 四回雜種牝豚 何歳		何ノ	某
明治何年買入	持主	何ノ	某
一 五回雜種牝豚 何歳			
全			
一 改良種牝豚 何歳		何ノ	某
全			
一 和洋一回雜種牝豚 何歳		何ノ	某

○明治何年何月何日斃死検査済鑑札返納	預リ人	何ノ	某
明治何年拜借			
一 全二回雜種牝豚 何歳	持主	何ノ	某
明治何年買入			
一 全三回雜種牝豚 何歳		何ノ	某
全			
○明治何年何月何日何村何某へ賣却鑑札返納			
一 全四回雜種牝豚 何歳		何ノ	某
明治何年出生			
一 全五回雜種牝豚 何歳		何ノ	某
全			
○明治何年何月何日斃死検査済鑑札返納			
一 全改良種牝豚 何歳		何ノ	某
全			
○明治何年何月何日何村何某へ賣却鑑札返納			
一 洋種牝豚 何歳		何ノ	某
全			

○農商工

一退脚雜種牡 當歲

以下倣之

明治十四年十二月三十一日調査現在

合羊數何十何頭 內牝何頭

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

當 歲○何頭 內牝○何頭

此內譯

一回雜種○何頭 內牝○何頭

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

當 歲○何頭 內牝○何頭

二回雜種○何頭 內牝○何頭

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

三回雜種 當 歲○何頭 內牝○何頭

何ノ某

四回雜種 內譯前ニ全シ

五回雜種 內譯前ニ全シ

改良種 內譯前ニ全シ

和洋一回雜種 內譯前ニ全シ

全二回雜種 內譯前ニ全シ

全三回雜種 內譯前ニ全シ

全四回雜種 內譯前ニ全シ

全五回雜種 內譯前ニ全シ

○農商工

全改良種
 內譯前ニ全シ
 洋種
 內譯前ニ全シ
 退脚雜種
 內譯前ニ全シ
 明治十五年
 買入
 一何回雜種牝豚 何歳
 全
 一何回雜種牝豚 何歳
 ○何月屠殺鑑札返納
 拜借
 一和洋何回雜種牝豚 何歳
 買入
 一全何回雜種牝豚 何歳
 出生

持主 持主 預リ人 持主 持主
 何ノ 何ノ 何ノ 何ノ
 某 某 某 某

一今改良種牝豚 當歳
 ○何月屠死検査済鑑札返納
 全
 一洋種牝 當歳
 全
 一退却雜種牝 當歳
 全
 一改良種牝 當歳
 明治十五年十二月調査現在
 合羊數何十何頭 內牝〇何頭
 內
 二歳以上〇何頭 內牝〇何頭
 當 歳〇何頭 內牝〇何頭
 內 牝〇何頭 內牝〇何頭
 何頭 內牝〇何頭 明治十五年買入並出生
 牝〇何頭

全 全 全 全
 何ノ 何ノ 何ノ 何ノ
 某 某 某 某

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

○何頭 內 牝牝○何頭 買入
內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭

當 歲○何頭 內 牝牝○何頭
何頭 內 牝牝○何頭 出生

外 ○何頭 內 牝牝○何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死
內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭

當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

內 ○何頭 內 牝牝○何頭 賣却
內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭

當 歲○何頭 內 牝牝○何頭
○何頭 內 牝牝○何頭 屠殺

內 二歲以上○何頭 內 牝牝○何頭
當 歲○何頭 內 牝牝○何頭

(朱書)
斤量○何十何斤 但一斤百六十目
代○價何拾何圓 但一斤代價金何圓
剪毛○何十何斤 但一斤百六十目
代○價何拾何圓 但一斤代價金何圓

○何頭 內 牝牝○何頭 斃死
○何頭 內 牝牝○何頭
羊籍帳ニハ朱書ノ通斤量等ヲ記載スヘシ

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
當 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

(朱書)
剪毛〇何十何斤 但一斤百六十目
代價〇何拾何圓 但一斤代價金何圓

此內譯

一回雜種何程 內 牝〇何頭 牝〇何頭

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
常 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

內 〇何頭 內 牝〇何頭 明治十五年買入並出生

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
當 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

內 〇何頭 內 牝〇何頭 買入

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
當 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
當 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

外 〇何頭 內 牝〇何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死

內 二歲以上〇何頭 內 牝牝〇何頭
當 歲〇何頭 內 牝牝〇何頭

內 〇何頭 內 牝〇何頭 賣却
二歲以上〇何頭 內 牝〇何頭

〇農商工

當 歲〇何頭 內 牝〇何頭
 〇何頭 內 牝〇何頭 屠殺
 內 二歲以上〇何頭 內 牝〇何頭
 當 歲〇何頭 內 牝〇何頭

(朱書)
 斤量〇何斤 但一斤百六十目
 此代價〇何圓 但一斤代價金何圓
 剪毛〇何斤 但一斤百六十目
 此代價〇何圓 但一斤代價金何圓

「羊籍帳ニハ朱書ノ通斤量ヲ記載スヘシ」

〇何頭 內 牝〇何頭 斃死
 內 二歲以上〇何頭 內 牝〇何頭
 當 歲〇何頭 內 牝〇何頭

(朱書)
 剪毛〇何斤 但一斤百六十目
 此代價〇何圓 但一斤代價金何圓

二回雜種 內譯外書共前ニ全シ
 三回雜種 內譯外書共前ニ全シ
 四回雜種 內譯外書共前ニ全シ
 五回雜種 內譯外書共前ニ全シ
 改良種 內譯外書共前ニ全シ
 洋和一回雜種 內譯外書共前ニ全シ
 全三回雜種

内譯外書共前ニ全シ
 全三回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全四回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全五回雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 全改良種
 内譯外書共前ニ全シ
 洋種
 内譯外書共前ニ全シ
 退却雜種
 内譯外書共前ニ全シ
 明治十六年
 以下年々前ニ全シ
 第三號

戸長役場ノ印籍帳ト押切
 内外種ノ區別ハ肩書ニ記入ス外種ハ外種何々雜種ト記載スヘシ
 堅四寸五分

<p>裏</p> <p>何村戸長役場</p> <p>印</p>	<p>表</p> <p>第何號</p> <p>長印</p> <p>牝 牝 牝 牝</p> <p>豚 羊 馬 牛</p> <p>何 毛</p> <p>何那何村持主</p> <p>何 某</p> <p>何年何月</p> <p>出生 買受 讓受</p> <p>牛馬ノ鑑札ヘハ横力繁殖乳用ノ譯ヲ毛歳ノ下ニ掲記スヘシ</p> <p>申川中川</p>
---------------------------------	---

第四號

内種ノ區別肩書ニ記載スヘシ尤モ外種ハ何々雜種ト記スヘシ

牛馬羊豚
帳ト割印
戸長ノ印
送狀
牝 牝 何 毛 何 歳
牡 馬 羊 豚

宮城縣下何郡何町

賣人 何 ノ 某

全縣下何郡何町

買人 何 ノ 某

右ハ今回(賣渡)候ニ付(牛馬)籍ヲ除キ送狀差出候也

年月日

戸長 何 ノ 某〇

第五號ハ二十三年二月報告例發布ニ付略ス

○甲第八十五號

明治十六年十月十四日

鑛山借區坑業ヲ營ム者出願心得左ノ通之ヲ定ム

一借區開坑出願ノ節ハ該區(町村)若クハ全郡内ニ居住シ身元慥ナル者二名以上ノ保證人ヲ要ス

但從來免許ヲ得タル者ハ更ニ保證人ヲ立テ其郡役所へ届出ヘシ

一保證人ハ明治九年(十月)工部省第十八號布達願書式願人ノ左側ニ其住所氏名ヲ連署捺印スヘシ

一保證人ハ出願者不在若クハ事故アルキハ納税及ヒ借區坑業明細表其他營業上ニ關スル一切ノ事ヲ負擔スヘシ

右布達候事

○甲第八十九號

明治十六年十一月三十日

借區開坑出願ノ節日本坑法第三章第九款第二項ノ規則不了解ヨリ認方粗漏ノ圖面差出候向モ有之不都合不少候條以來別紙雛形ニ照準測量圖ヲ調製差出ヘシ

○甲第九十一號

明治十六年十一月三十日

坑業明細表差出候節自今試掘借區ハ證券ノ番號又採取賦稼ハ許可ノ節願書へ記載ノ番號ヲ表首ニ記入スヘシ

○農商工

但試掘延期讓渡廢業其他鐵業ニ關係ノ書類差出候節モ總テ本文同様心得ヘシ
右布達候事

○甲第六十七號 明治十七年七月十八日

明治十六年(五月)太政官第十三號布達ニヨリ勸業諮問會規則別紙ノ通之ヲ定ム
右布達候事

(別紙)

勸業諮問會規則

- 第一條 勸業會ハ勸業上事務ノ參考ニ供スル爲メ縣會ノ諮問ニ答フルモノトス其餘項左ノ如シ
- 一 運輸ノ利害(道路港灣開鑿修繕)ニ關スル事
- 二 澇渠用惡水疏通ニ關スル事
- 三 農商工業ノ盛衰ニ關スル事
- 四 金融ノ通塞ニ關スル事
- 五 惡虫及有害鳥獸驅除ノ事
- 六 動植物ノ改良及蕃殖ノ事
- 七 山林ノ栽培及保護ノ事
- 八 水族ノ保護及養魚方法ノ事

- 九 諸般製造物ノ改良蕃殖ノ事
- 十 農商工會等ノ事
- 十一 農商工事統計ノ事
- 十二 共進會及博覽會ノ事
- 十三 前項ノ外農商工ノ利害ニ關スル事
- 第二條 會員ハ縣令之ヲ撰任ス其人員ハ一郡區各二名トス
- 第三條 會員ノ任期ハ滿二ケ年トス但滿期ニ至リ再選スルコトアルヘシ
- 第四條 會員ハ縣會議員學務委員衛生委員勸業委員及戶長等ニテ兼務セシムルコトアルヘシ
- 第五條 農商務省ノ官吏及農工商上等會員又ハ特ニ許ス處ノ縣官ハ會場ニ列シ意見ヲ述フルコトアルヘシ但會員ノ數ニ加ヘス
- 第六條 會長ハ縣令之ニ任シ時宜ニ依リ書記官又ハ主務課長ヲシテ代理セシムルコトアルヘシ
- 第七條 書記ハ主務ノ屬官中ヨリ縣令之ヲ命シ本會ノ雜務ヲ處辨セシム
- 第八條 開會ハ每年九月トス但時宜ニヨリ會期ヲ伸縮シ又ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第九條 通常開會ノ日數ヲ十二日臨時開會ノ日數ヲ七日以内トス

第十條 會員諸説ノ採擇ハ會長ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ意見ヲ識別スル爲メ起立ニ依ルコトアルヘシ

第十一條 農商務卿及主務ノ官署ヨリ地方勸業上ノ件ニ付本會ニ意見ヲ問ハルヘシアル片ハ之ヲ審議ス

第十二條 農商務卿及主務ノ官署ニ本會ヨリ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得第十三條 通常臨時ノ開會中ニ止マラス平常ト雖モ詰問書ヲ以テ會員ノ一部又ハ全部ノ意見ヲ徵スルコトアルヘシ但同様公益ノ件ハ會員ヨリ意見ヲ呈出スルヲ得

第十四條 會員ハ往復旅費一日十里金壹圓滞在日當一日金五拾錢ヲ支給スヘシ

○甲第四十六號 明治十八年五月六日

米商組合規程左ノ通相定候條本年六月三十日限り申出認可ヲ受クヘシ

第一條 米商ヲ營ムモノハ最寄町村聯合組合ヲ設置スヘシ

第二條 組合ノ名稱ハ何地米商組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ條項ニ依テ規約ヲ定メ郡區役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項 米質ノ善惡製法ノ精粗ニ由テ價格等差ヲ定ムル事

第二項 米製粗惡又ハ不正ノ所爲アルモノハ他方ニ輸出セサル事

第三項 他方ニ輸出スルモノハ俵造ヲ完全ニシ必ス四斗入ト定ムル事

第四項 役員ノ選舉法及其權限ノ事

本年(九月) 甲第八十二 號ヲ以テ第 十五條削除

廿年(六月) 縣令第六十 二號ヲ以テ 第四條但書 追加

第五項 費用徵收方法ノ事
第六項 會議ニ關スル規程ノ事
第七項 違約者處置方法ノ事
右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第四條 各組合聯合シ便宜ノ地ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但組合及取締所ノ役員ハ其重立タル者ニ限り互選ノ上縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取締所ニ於テハ各組合輸出米ヲ檢査スルノ方法ヲ設クヘシ

第六條 組合規約ニ違背シタル者アル片ハ其姓名事由ヲ取調郡區役所ヲ經テ縣廳ニ申出ヘシ

右布達候事
○甲第四十七號 明治十八年五月十五日

同業組合ヲ設ケントスル片ハ左ノ準則ニ據ルヘシ
但總系改良組合米商組合沿海水産組合ハ此限ニアラス

第一條 農商工ノ業ニ從事スルモノニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル片ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り郡區役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

本年(十一月) 甲第八 十六號ヲ以テ 追加

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條 同業組合ノ規約ヲ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉方及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項

第四條 組合ノ設有ル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルルルハ縣廳ニ申出テ其認定ヲ請フヘシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルルルハ更ニ認可ヲ請フヘシ

本年(十二)月(九)日
令(第)二(十)二(號)
省(第)二(十)二(號)
審(第)二(十)二(號)
審(第)二(十)二(號)
審(第)二(十)二(號)

第八條 分立又ハ合併スルルルハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ

第九條 企業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルルルハ郡區役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 組合規約ニ違背シタル者アルルルハ其姓名事由ヲ取調郡區役所ヲ經テ縣廳ニ申出ヘシ

右布達候事

○甲第五十七號
明治十八年六月二十五日
醬麴(麴室共)及酒造營業者ニシテ米穀ヲ購入スル者又ハ米商人ニアラサルモ米穀ヲ本縣外ニ輸出販賣スル者ハ本年甲第四十六號布達米商組合ニ加入スヘシ
但醬麴及酒造營業者ハ別ニ組合ヲ設ケ其規約ヲ結ヒ縣廳ノ認可ヲ受ケタルルルハ此限ニアラス

○甲第八十五號
明治十八年十一月十六日
米商營業願及廢業届ハ自今米商組合頭取ノ連書ヲ以テ差出スヘシ

右布達候事

○丙第五號
明治十九年二月五日
種牡牛馬ハ別紙様式ニ倣ヒ毎年十二月三十一日現在ノ頭數ヲ取調翌年一月限り差出ス可シ

○農商工

明治何年種牡馬頭數表

種	類	年齡寸	尺毛色	産	地	畜養地名	所有者住所姓名
内國種又ハ洋種 乗用農用等	何歲	何尺何寸	何毛	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

合計

明治何年種牡牛頭數表

種	類	年齡寸	尺毛色	産	地	畜養地名	所有者住所姓名
内國種又ハ短角 種デボン種等	何歲	何尺何寸	何毛	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

合計

○甲第十三號

明治十九年三月五日

種牡牛馬取締規則左ノ通相定ム

種牡牛馬取締規則

- 第一條 凡種牡牛馬ハ左ノ諸項ニ依リ係員檢定シタルモノニ限ルヘシ
 但檢査合格ノモノハ左脚部ニ(み)ノ烙印ヲ爲スヘシ
- 一 種牡牛馬ハ產地血統正シク且強壯ニシテ骨格善良ナル者
- 一 種牡牛ハ滿二歳以上十歳以下(洋種ハ十歳以上ニ至ルモ妨ナシ)身丈ケ三尺五寸以上ノモノ
- 一 種牡馬ハ滿四歳以上十六歳以下(洋種ハ十六歳以上ニ至ルモ妨ナシ)身丈ケ四尺六寸以上ノモノ但十六歳以上ト雖モ特ニ強壯ニシテ骨格完備駿良ナルモノハ採用スルコトアルヘシ
- 一 遺傳病若クハ惡癖等ナキモノ
- 第二條 種牡牛馬ノ檢査ハ毎年春秋二回トス其場所時日ハ該係員ヨリ報告スヘシ若シ指定ノ場所時日ニ牽出シ難キトキハ保證人二名以上ヲ立其事由ヲ詳悉シ係員ニ届出其指揮ヲ受クヘシ
- 第三條 種牡牛馬ノ放牧ハ毎年清明ノ當日ヨリ小暑ノ前日迄ニ限ルモノトス
- 第四條 種牡牛馬ハ本則ニ定ムル年齡ヲ超過スルカ或ハ斃死又ハ糞養人預替其他事故アル時ハ所轄戸長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ
- 第五條 種牡牛馬疾病等ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診察ヲ受ケ手當ヲナスヘシ此場合ニ於テハ其診察書ヲ添ヘ所轄戸長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第六條 種牡牛馬ハ常ニ飼養攝生ニ注意シ應分ノ運動外ハ使役スヘカラス

○甲第二十六號 明治十九年四月十三日

田圃蟲害豫防規則左ノ通相定來ル五月一日ヨリ施行ス

田圃蟲害豫防規則

第一條 左ニ掲シル蟲類ハ平素作主ニ於テ豫防ニ注意シ若シ發生セシトキハ直ニ之ヲ驅除スヘシ

螟蟲 尺蠖(桑樹ヲ害スルモノ)

第二條 害蟲驅除豫防ノ爲メ一戸長役場所轄ノ町村ヲ以テ一驅蟲區ト定ム

但仙臺區ハ該區内ヲ以テ一區トス

第三條 害蟲蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ作主ヨリ直ニ戸長役場ニ届出ヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ戸長ハ郡區長及最寄警察署ヘ郡區長ハ縣廳ニ急報スヘシ

第四條 害蟲蔓延ノ場合ニ於テハ郡區長戸長及警察官吏ノ指揮ニ依リ一區又ハ數區聯合驅除ニ從事スヘシ

第五條 驅除豫防ニ要スル費用ハ一區若クハ數區聯合驅除ノ場合ニ限り町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第六條 郡區長ハ左ノ項目ニ依リ其都度害蟲驅除豫防ノ頓末ヲ縣廳ニ届出ヘシ

一 害蟲發生及其撲滅年月日

二 害蟲種類及其名稱

三 被害反別及其損害見積額

四 豫防驅除執行ノ方法

五 費用仕拂額及其細目

第七條 第一條ニ掲ケサル害蟲ト雖モ臨時發生蔓延ノ徵アル時ハ此規則ニ依リ驅除豫防スルコトアルヘシ

第八條 本則第一條及第三條(但書ヲ除キ)ニ違背シタル者ハ一月以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○乙第二十二號 明治十九年四月十六日 郡區町村

甲第二十六號ヲ以テ田圃蟲害豫防規則ヲ發布シタルニ付テハ郡區長及戸長ニ於テ平素豫防ニ注意シ豫防及驅除方法ノ實施ヲ要スルノ場合ニ於テハ詳細記述具申スヘシ

○縣令第三十六號 明治十九年十月十四日

○縣令第三十七號 明治十九年十月十九日

農商務省令第七號ニ基キ漁業組合設置規程左ノ通之ヲ定ム

漁業組合設置規程

○農商工

廿二年(四)月(四)號令第(三)十七號ヲ以テ追加

二十年(十)月(十)號令第(七)十六號ヲ以テ改正

本年(十一)月(十一)號令第(四)十九號ヲ以テ第一條中(三)字削除

第八條 追加ス
第九條 追加ス
第十條 追加ス
第十一條 追加ス
第十二條 追加ス
第十三條 追加ス
第十四條 追加ス
第十五條 追加ス

- 第一條 漁業 水産動物採捕ヲ併稱シテ從事スル者ハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ除弊興利ノ趣旨ニ基キ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ當廳ノ認定ヲ受ケ組合ヲ設置セサルコトヲ得
- 第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ漁法ヲ改良シ總テ一般ノ利益ヲ増進スルヲ目的トス
- 第三條 組合ハ左ノ二類トス
第一類 捕魚採藻 遠海漁業若クハ大地引 各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲ爲ス者
第二類 河海沼湖沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲ爲スモノ
- 第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合ト爲スヘシ
- 第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
一 組合ノ地區、名稱及事務所ノ位置
二 組合ノ目的
三 役員選舉法及權限
四 會議ニ關スル規程
五 加入者及退去者ニ關スル規程
六 違約者處分ノ方法

- 七 費用賦課及徵收方法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムルヲ
- 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ルヲ
- 十 漁場區域ニ關スルヲ
- 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項
- 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルハ當廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルハ當廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ其管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘキモノトス
但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルハ亦本條ニ準スヘシ
- 第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ
但支部ハ組合ノ事情ニ依リ必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得
- 第十條 各組合ニ於テハ左ノ役員ヲ設クヘシ
組頭 一名

○農商工

取締

二名以上

第十一條 組頭及取締ハ其組合内ニ於テ互選シ住所姓名ヲ具シテ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 組合規約ニ違背シタル者アルキハ其姓名事由ヲ取調ヘ郡區役所ヲ經テ當廳ニ報告スヘシ

第十三條 各組合ハ總テ前年度ノ事蹟及費用決算表ヲ毎年一月當廳ニ報告スヘシ
第十四條 第一條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第十四號

明治二十年一月二十八日

宮城農學校職員職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

宮城農學校職制

第一條 宮城農學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭

助教諭

書記

第二條 學校長ハ知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教諭以下職員ヲ監督シ教室ノ秩序ヲ

保持スル事ヲ掌ル

但學校長ヲ置カサルキハ校長心得ヲ置キ學校長ノ職務ヲ處理セシム

第三條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ事ヲ掌ル

第四條 助教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教諭ノ職掌ヲ助ク

第五條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ校中一切ノ庶務ニ從事ス

第六條 教諭助教諭ノ人員ハ學科ノ輕重及生徒ノ多寡ニ應シテ之ヲ定ム

○縣令第五十六號

明治二十年六月十七日

明治十九年(八月)農商務省令第九號蠶種検査規則施行手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

蠶種検査規則施行手續

第一條 蠶種検査規則ニ依リ蠶種ヲ製造シ及蠶種ヲ販賣スルカ爲メ鑑札ヲ受ケントスルモノハ第一號書式ニ依リ其(製造)(販賣)願書ヲ認メ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第二條 蠶種製造者及蠶種販賣者改氏名又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ前條ノ手續ニ依リ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ

第三條 蠶種検査規則第十一條ニ依リ蠶種製造者及蠶種販賣者鑑札ヲ返納セントスル時ハ其願書ニ廢業寄留轉籍等ノ事由ヲ記シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出ス可シ

第四條 蠶種販賣者行商セントスル時ハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第五條 蠶種検査ハ左ノ三ヶ所ニ設ク

但時宜ニ依リ派出ノ上検査ヲ爲スコトアル可シ

仙臺 角田 涌谷

第六條 蠶種検査規則第二條ニ依リ蠶種検査ヲ受ケント欲スル者ハ第二號書式ノ目錄ヲ作り之ヲ該蠶種ニ添ヘ検査所ニ差出ス可シ

第七條 検査ヲ受ク可キ蠶種ハ適宜ノ器物ニ入レ損傷ノ患ナカヲシム可シ

第八條 蠶種検査期日春蠶種及初度夏蠶種ハ毎年十月一日ヨリ夏蠶種ハ六月十五日ヨリ秋蠶種ハ八月十日ヨリ検査ヲ始ムルモノトス

第九條 蠶種検査規則第七條ニ依リ春蠶種ノ掃立枚數及製造額又ハ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及製造額ヲ届出ントスル時ハ其届書ニ第三號書式ニ依リ蠶種ノ區別種類掃立枚數製造額ヲ記載シ戸長(區ハ區長)ノ奥書ヲ取り郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出ス可シ

(書式第一號)

蠶種鑑札下附願

私儀

蠶種(製造又ハ販賣)仕度候間(製造販賣)鑑札御下附被成下度此段奉願候也

年月日

宮城縣知事宛

前書ノ通願出候ニ付奥印候也

(全第二號)

郡區町村番地

氏

名

戸長 氏

名

蠶種掃立枚數及製造額(或ハ豫算)御届

春夏秋ノ區別	種	類	掃立枚數	蠶種製造額
	春	赤	枚	何
	鬼	熟	枚	何
	質	何	枚	何
合	計	種	枚	何
	何	何	何	枚

右之通ニ候間御届申上候也

郡區町村番地

○農商工

年月日

知事宛

前書ノ通相違無之候也

氏名

戸長氏名

(全第三號)

蠶種目錄

春夏秋ノ區別	種	類	原	種	製	系	用	種
春	赤	熟	何	枚	何	枚	何	枚
合	鬼	縮	何	枚	何	枚	何	枚
計	何	種	何	枚	何	枚	何	枚

右之通御檢査被成下度候也

年月日

蠶種檢査所宛

郡區町村番地

氏名

本年縣令第一號ヲ以テ第一條ヲ改正
 廿三年(五月)縣令第一號ヲ以テ本令第一條中第十五字ヲ削除セ

○縣令第三號

明治二十一年一月二十一日

明治十七年(十二月)甲第九十四號布達漁業取締規則ヲ改ムルノ如シ

漁業取締規則

第一條 凡ソ新規ノ漁具ヲ使用シ及舊建(西洋費卷ト稱スルモノ、類モ含有ス)費張ヲナサントスルモノ又ハ初メテ漁場ヲ設ケントスル片ハ近隣町村ノ承諾ヲ受ケ漁業組合組頭(組合ナキ地ハ之ヲ要セス)ノ連署ヲ得テ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ願出許可ヲ受ク可シ

第二條 河海沼湖ノ水底ニ産置セル魚卵ハ總テ捕獲ヲ禁ス

第三條 左ニ掲グルモノヲ以テ漁業ヲ爲スヲ得ス

一 潜水器械

二 火藥類

三 注毒(山椒及其他ノ藥品ヲ流下スル類ヲ云フ)

第四條 左ノ漁具ハ總テ使用ヲ禁ス

一 地獄網

二 五寸ノ間十七節已上ノ暗線網及縋網

三 チカ子(鮑ヲ捕フルノ具)

第五條 左ノ漁具及漁業ハ其期限中ニテ停止ス

○農商工

廿四年(三
月)縣令第
二十七號
以テ改正
本年(四月)
縣令第四十
二號ヲ以テ
第五條中四
項ヲ削除ス

- 一 待網(待網又ハ「モツパ」)
(五月一日ヨリ七月三十一日マテ)
 - 二 簀建、簀張、襦漬
(四月一日ヨリ六月三十日マテ)
 - 三 鮓(魚見モ全シ)
(一月一日ヨリ八月三十一日マテ)
 - 五 鮓
(一月一日ヨリ六月三十日マテ)
 - 六 鮓
(八月一日ヨリ十月十五日マテ)
 - 七 海鼠
(三月十一日ヨリ六月二十日マテ)
- 第六條 漁具ノ全水面ニ及スモノ及流域ヲ妨グルノ漁業ハ總テ之ヲ禁ス
但縣廳ニ於テ實際ニ密ナキモノト認メ特ニ使用ヲ許可シタルモノハ此限ニアラ
ス
- 第七條 左ニ掲グル各川ノ川口ヨリ上流百間及川口ヨリ海面百間四方ハ毎年九月一
日ヨリ十二月三十一日マテ漁業ヲ停止ス
- 一 北上川(石巻口及追波口共)
 - 二 阿武隈川 (荒濱口)
 - 三 名取川 (閑上口)
 - 四 小泉川 (小泉口)
- 第八條 捕魚採藻ノ業ヲ營ムモノハ其營業ニ關スル願書ハ漁業組合組頭(組合ナキ
地ハ之ヲ要セス)ノ進書ヲ要ス可シ

第九條 此規則ニ於テ禁セサル所ノ漁具ト雖モ實際有害ノモノト認ムルハ其使用
ヲ禁スルコトアル可シ

第十條 本則第一條乃至第七條ノ規定ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留
ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第十二號 明治二十一年二月十日
漁場取締規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

漁場取締規則

- 第一條 縣内縣外何人ヲ問ハス組合外ノ者從來ノ慣行特約ニ依リ捕魚採藻ノ業ヲ爲
ス時ハ其地組合ノ規約ニ遵フ可シ
 - 第二條 遊樂若クハ自用ノ爲メ魚具海藻ヲ捕採スル者ハ其地組合規約ニ定メタル禁
停制限ノ事項ヲ遵守ス可シ
 - 第三條 他府縣ノ沿海ニ到リ捕魚採藻ノ業ヲ爲ス者モ亦前二條ニ依ルヘシ
 - 第四條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢
以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 訓令第三十五號 明治二十一年五月一日 郡區町村
傳染病馬届出書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

傳染病馬 又ハ
全治 御届

○農商工

發病又ハ全治	病名及輕重産	地牝	牡毛	色年	齡	何郡何村何番地 畜主又ハ管理者
年月日						何ノ誰
						施療獸醫 何ノ誰

右之通届出候ニ付此段御届仕候也

何郡何村(何村外何ヶ村)戸長何ノ誰印

知事宛

○訓令第八號

明治二十二年一月二十九日 郡 區

自今左記ノ礦物日本坑法第三款所屬トシテ取扱フ旨其筋ヨリ達有之候條從前下付相成タル試堀借區券此際返納セシムヘシ

- 陶土 耐火粘土 石版石 瑪瑙 石綿 金剛砂 雲母
- 石膏 鹹 泉

○訓令第十二號

明治二十二年二月七日 郡 區

度量衡賣捌及仕入高調之義明治十八年五月農第五〇四號ヲ以テ達シ置キ候處爾今左ノ離形ニ改正候條郡市役所ヲ經毎月取調翌月五日限り差出候様右賣捌人へ達スヘシ

仕入及賣捌高調

本年訓令第一號ヲ以テ改正候條
廿一年所轄條
ノ下又ハ分
察ノ字進加
廿四年訓令第三號
十月廿四日
正全字句改

種類	尺度(斗量權衡)		賣捌人		價	通	價	通	價	製作處地名
	仕入年月日	仕入高	何某地	姓						
何、										
何、										
何、										

○訓令第十九號

明治二十二年三月一日 郡 區

鐵山試堀借區通洞及採取ニ關スル諸願書是迄正副三通差出來候處自今副本ハ一通差出スヘシ

○縣令第五十三號

明治二十二年六月二十九日

獸醫開業規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

獸醫開業規程

- 第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ其年月日族籍及開業地ノ郡市町村番地ヲ記シ獸醫開業免狀寫ヲ添郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ
- 第二條 左ニ該當スルキハ其郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツ可シ
 - 一 他府縣又ハ管内ノ他郡市町村へ轉籍寄留開業セントスル時及廢業スル時

○農商工

- 一 他府縣又ハ管内ノ他郡市町村へ出張診察治療所ヲ設ケントスル時及之ヲ廢スル時
- 第三條 業務上ニ關シ官署ニ差出ス可キ書面ニハ總テ獸醫ノ二字ヲ氏名ノ肩ニ記載ス可シ
- 第四條 自ラ診察セシ患者ニ非サレハ藥劑ヲ投與スルヲ得ス
- 第五條 開業免狀ヲ有セサル者ニシテ治療ヲ代施セシムルヲ得ス
- 第六條 治療中ノ患者ニシテ斃死セシ時ハ診斷書ヲ所有者或ハ管理者ニ交附ス可シ
- 第七條 治療中ノ患者ニアラサルモ斃死後診斷書ヲ請求スル者アル時ハ速ニ死体ヲ檢案シ檢診書ヲ所有者或ハ管理者ニ交附ス可シ
- 第八條 開業獸醫ハ處法録ヲ製シ置患者所有者或ハ管理者ノ住所氏名患者ノ牝牡毛色年齢病名藥劑分量等ヲ詳記シ他日ノ考證ニ備フ可シ
- 第九條 傳染病蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ直チニ縣廳及最寄警察署市役所町村役場へ届出可シ
- 第十條 治療セシ患者ハ一ヶ年分取纏メ翌年一月三十日限り別紙表式ニ據リ縣廳ニ届出可シ

附則

一 從來開業ノ獸醫ハ本規程第一條第二條ニ據リ七月三十日限り縣廳ニ届出可シ

(別紙表式)

明治何年 從何月 至何月 患者治療表

病症類別	病畜種類頭數					計	全治數	未治數	斃死數
	牛	馬	羊	豕	犬				
呼吸器諸病									
循環器諸病									
消化器諸病									
泌尿器諸病									
生殖器諸病									
五官器諸病									
皮膚諸病									
外傷諸病									
牛疫									

- 第五項 藪荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第六項 一梱ハ勿論一梱若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事但等級ヲ區分シ一梱トナシタルモノハ此限ニアラス
- 第七項 生糸製造及結束ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買セサル事
- 第八項 綾取アル揚粹ヲ用ヒ尺度ヲ一様ナラシムル事
- 第九項 生糸ノ結束及總ノ量目ヲ一様ナラシムル事
- 第十項 提島田折返造等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造販賣セサル事
- 第十一項 生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第十二項 總計報告調査ノ法ヲ設クル事
- 第十三項 組合員ノ證標ニ關スル事
- 第十四項 役員撰擧ノ方法及其權限處務順序ノ事
- 第十五項 會議ニ關スル規程
- 第十六項 違約者處分ノ方法
- 第十七項 經費ノ賦課徵收支出ノ方法
- 第十八項 前各項ノ外組合ニ於テ必用トスル事項

- 第八條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ依リ第九條及第十條ニ定ムル取締所會議ニ於テ決定シ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ
- 第一項 取締所位置
- 第二項 生糸検査ノ方法ヲ設ケ其精粗ヲ鑑別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スル事
- 第三項 組合ノ證標並ニ證紙ハ一定ニ製造交付スル事
- 第四項 組合ニ關スル事務ノ處分及組合同規約實施監督ノ方法
- 第五項 役員ノ權限及處務規程
- 第六項 會議ニ關スル規程
- 第七項 違約者處分及紛議ヲ仲裁スルノ方法
- 第八項 經費賦課徵收支出ノ方法
- 第九項 統計編纂及通信報告ニ關スル方法
- 第十項 右ノ外必用トナス事項
- 第九條 取締所ノ組織及施設方法ヲ議定セシムル爲メ取締所會議々員ヲ置ク其議員ハ每郡市並ニ機械製糸場組合員中ヨリ各一名ヲ選出ス可シ
- 第十條 議員ハ右蠶糸業組合重役ニ於テ組合員中蠶種二枚以上ヲ掃立養蠶ヲ爲シ若シハ生糸二貫目以上ヲ製出スル組合員中ヨリ之レヲ選舉シ其機械製糸場組合ニ於テハ重役中ヨリ互撰ス可シ

第十一條 議員ノ任期ハ二ケ年トシ満期ノ年二月中ニ改選ヲ可シ但満期ニ至リ再撰
スルヲ得

第十二條 組合取締所ニ於テハ相當ノ役員ヲ置キ諸般ノ事務ヲ擔任セシム可シ

第十三條 取締所ノ役員中重大ル者ハ取締所會議々員ニ於テ各組合員中ヨリ選出シ

縣廳ノ認可ヲ請フ可シ但時宜ニ依リ組合員外ヨリ撰出スルコトヲ得

第十四條 組合役員ノ内其重ナルモノハ組合員中ヨリ選舉シ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第十五條 組合又ハ取締所役員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査ス可シ

第十六條 組合員ハ組合ノ名稱ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十七條 組合員ハ組合及取締所ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第十八條 組合員ハ必ス其組合ノ諸票ヲ携帶ス可シ

但證票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受ク可シ

第十九條 第一條ニ違背スルモノハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又金貳拾錢以上

壹圓九拾五錢以内ノ科料ニ處ス

○縣令第四十九號

明治二十三年九月十三日

明治二十三年(四月)法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ヲ
得ント欲スルモノハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ノ與書ヲ得町村ニ於テ
ハ那役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ但出張又ハ寄留地ニ於テ營業セントスルトキハ其

營業地市町村長ノ與書ヲ受クヘシ

書式

蹄鐵工假免狀下附願(用紙美濃紙正副二通)

住所(寄留又ハ出張者ハ本籍併記)

族籍

氏 名

生年月日

私儀何郡(市)町(村)何番地ニ於テ蹄鐵工開業仕度候間假免狀御下附被成下度履歷書
相添此段奉願候也

年 月 日

氏 名 印

農商務大臣宛

市(町村)長與書印

○訓令第二十三號

明治二十三年九月十三日

郡市長

縣令第四十九號ニ依リ蹄鐵工假免許出願者アルトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ本人ノ願書
ニ添付差出スヘシ

蹄鐵工假免許出願者調書

一營業區域 (何郡(市)一田又ハ何郡(市)ノ内何々町村)

○農商工

區域內地勢廣袤

全牛馬頭數

一營業年限 (資格ヲ有スル蹄鉄工充實迄ノ見込年限)

一調査事由 (本人開業出願區域内ハ蹄鉄工ニ乏シク開業蹄鉄工何某居住地何町(村)

ヨリ距離何里ニシテ交通不便假開業ヲ要スル等ノ理由若クハ營業區域及年限ハ本人ノ申出ニ依ルト雖モ該區域内ニ蹄鉄工某ノ開業セルアルカ又ハ區域外ト雖モ某ノ開業地何町(村)ニ接近シ敢テ開業ヲ要セサル等ノ事由)

○訓令第十六號

明治二十四年三月十四日

郡市役所

明治十九年(十一月)訓示博覽會共進會開設規程中第二條第三條ヲ左ノ通更正シ第四條以下順次繰上ク

第二條 博覽會共進會等ヲ開設シタルトキハ閉會後十日限り左ノ書式ニ依リ該會ノ景況取調尙出品目錄(解説書式)及證狀又ハ褒狀寫ヲ添へ縣廳へ報告スヘシ

報告書式

明治何年 何郡市町村 開設博覽會報告

會場地名 何市町名 何郡村名

會名 何博覽會何共進會ト記スヘシ(譬ヘハ水産博覽會礦系共進會ト云フカ如シ)其種類ニ制限ナキ者ハ單ニ博覽會物産會品評會ト記スヘシ

會主 何郡市町村或ハ何會社又ハ何某

開場 何月何日

閉場 何月何日

出品區域 何郡市町村聯合或ハ何郡市町村

出品人員 何人

出品員數 若干

出品總價 何圓錢

出品種類 農業水産或ハ漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農業水産ハ其物品名ヲ詳細ニ記スヘシ

出品賣數 若干

出品賣價總額 何圓錢

褒賞總人員 何人

褒賞等級別 一等人何人二等人何人三等人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人

褒賞々與物件 杯或ハ牌又ハ何物品或ハ金何圓(假令ハ一何物品又ハ何何圓二等

來觀人員 何々)等成ルヘシ詳細ニ記スヘシ

通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ)

○農商工

通券收額 何圓錢
 會費總額 何圓錢
 會費區別 何費何圓通券料何圓又ハ釀金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
 本會景況云々

(譬へハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セル者或ハ漆器織物其他製作品ノ著シク改良進步セシ者或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキ者或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農産物水産物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ揭ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ
 右報告候也

年月日

郡市町村長又ハ何某

知事宛

○訓令第二十九號

明治二十四年四月二十五日

郡役所 町村役場

明治二十三年(七月)農商務省令第七號第四條ニ依リ試掘及借區出願ニ關スル屆書ヲ差出シタル者アルトキハ町村役場ハ其屆書欄外ニ受理ノ年月日ヲ記シ左ノ事項ヲ詳細取調受理ノ日ヨリ遅クモ十二日以内ニ郡役所へ進達シ郡役所ハ其書面ニ就キ意見

ヲ附シ屆書郡役所へ到達ノ日ヨリ五日以内ニ當廳へ進達スヘシ

- 一 出願地ニ就キ圖面ノ正否
- 一 公益上ノ利害
- 一 出願地ニ於テ他ニ鐵業ヲ營ムモノ、有無
- 一 一鐵山ヲ數人ニテ試掘又ハ借區スルモノアルトキハ双方坑區ニ十間以上距離ノ有無

●通運

○甲第二號

明治十三年一月十三日

昨年第九號西洋形商船海員雇入雇止規則公布ニ付當縣甲第四百三號ヲ以テ該雇入雇止證書用紙等ノ義及布達置候所尙小數ノ人員雇入便宜ノ爲メ別紙雛形ノ通雇入證書發行相成候ニ付寒風澤石卷兩港浦役場ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下候條此旨布達候事

海員雇入證書用紙 定價金貳錢

(雛形略ス)

○甲第六十五號

明治十三年四月二十二日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊々伍ヲ組ミ行進ノ節ハ其賃錢請求不相成候

○通運

條此旨布達候事

○甲第百十八號

明治十三年七月三十日

諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破衝突其他ノ災厄ニ罹リタルキハ左ノ離形ニ照準取調
其都度可届出此旨布達候事

但西洋形商船ニシテ本文全様ニ罹リタル分ハ其船主ヨリ縣廳ヲ經テ驛遞局へ届出
ヘシ

離形

本貫何々

持主

何 某

船長海技免狀ノ等級

何 某

運轉手全

何 某

機關手全

何 某

外何人乗

帆船又ハ蒸氣船内車又ハ外車

軍艦 何號 木製鐵製

商船 何號 橋敷

長 幅 馬力

噸數 何年月日出帆

行方知レス 何年何月日時分夜陰ナレハ燈火ノ有無

遭難ノ時 航海中歟碇泊中歟

遭難ノ場所 難風ノ爲メ歟暗礁ニ觸レ若クハ衝突歟

難破ノ因由 經緯度又ハ燈臺岬港若クハ著名ノ山岳或ハ市街ヨリ

本船所在 距離方位

難破ノ景狀 皆破皆沒歟修繕ニ堪ユヘキ歟或ハ船体器械ノ破損歟

海員並乗客ノ死傷 重傷何人輕傷何人死亡何人

積荷ノ存否 濡破何石歟何個歟沈没何石歟何個歟

本貫何々

持主

何 某

船頭

某

本年(九月)
甲第百四十
第九號ヲ以テ
第八項改正

何反帆

商船

何丸

石數

以下全上

何

某

外何人乘

○甲第八十七號

明治十四年五月二十日

開拓使函館港内國船碇泊取締規則左ノ通相定候旨全使函館支廳ヨリ通知越候條此旨布達候事

函館港内國船取締規則

第一條 函館港ノ經界ハ山春泊町ノ南端ヨリ上磯郡上磯村有川ノ流末ニ至ル直線ヲ以テ港界線ト定ム

第二條 塵芥土石石炭灰燼等碇泊場ヲ障害スヘキ物品ヲ港界内ニ投棄スルヲ許サス

第三條 軍艦ヲ除ク外港界内ニ於テ獵リニ發砲スルヲ許サス

第四條 軍艦ヲ除ク外火藥其他破裂質物等危害アル貨物ヲ搭載セシ船舶ハ碇泊前速ニ船政所ニ届出全所官吏ヨリ指揮スル場所ニ限リ碇泊スヘシ

但當港ニ於テ搭載スルルモ本條ノ通心得ヘシ

第五條 商船中傳染病アルルハ碇泊前速ニ船政所ニ届出全所官吏ヨリ指揮スル場所ニ限リ碇泊スヘシ

第六條 在港ノ船舶ハ衝突豫防規則ヲ遵守シ必ス日没ヨリ日出迄白色ノ一燈ヲ船上ニ掲揚スヘシ

第七條 港内ニ設置スル浮標礁標又ハ棧橋ノ欄干橋杭等ニ船舶木材等ヲ繫クヲ許サ

第八條 在港ノ船舶ハ他船出入ノ航路ニ障碍ナキ場所ヲ撰ヒ碇泊スヘシ

但船政所官吏ニ於テ障碍アリト認ムルルハ他ニ移轉セシムルヲアルヘシ

第九條 各船持ハ本則ノ趣其船ヲ主管スルモノハ豫テ知ラシメ置ヘシ

○甲第四號 明治十五年一月十七日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿之道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨布達候事

○甲第三十九號 明治十五年三月二十七日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡船及開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並ニ郵便物遞送集配ル特ニ配達人タルヲ證スノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

○甲第八十二號 明治十五年七月十五日

石材切取ノ節土砂礫ノ類ヲ河川ニ投棄シ及許可ヲ得スシテ流水スル義一切不相成候

○通運

條此旨布達候事

○甲第二百二十二號

明治十五年十二月二十二日

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達特ニ配達タルヲ證スルノ時ニ限り賃錢請求不相成候條此旨布達候事服ヲ着シ配達スルトキ

○甲第四十九號

明治十六年六月二十三日

道路橋梁掃除規則左ノ通更訂ス

右布達候事

第一條 請持丁場ノ大掃除ハ其請持町村ニ於テ毎年三月九月トシ其他六月十二月ノ初旬ニ必ス掃除スヘシ

第二條 宅地前道路ハ其中央ヲ半折シ兩側居住人官署及其用ニ於テ分負シ其片側ナルモノハ全路ヲ負擔シテ日常清潔ニ掃除スヘシ

第三條 道路ニ沿フタル溝渠埋樋下水等ハ其地ノ居住人ニ於テ負擔シ町村ノ主管ニ係ルモノハ請持丁場ノ定ニ依リ時々浚疏スヘシ

第四條 敷砂利既ニ密着シタル道路ニシテ小破又ハ窪ミニ雨水溜リ泥濘トナルヘキケ所ハ小砂利ヲ入レ破壊セサル様手入ヲナスヘシ

但敷砂利ノ上ニハ決シテ置土ヲ爲スヘカラス

第五條 修繕成功スルモ敷砂利未タ密着セス爲メニ散亂溝渠等へ落入ルヘキケ所ハ期節ニ係ラス臨時手入ヲ爲シ砂利ヲ中央又ハ凹處ニ敷キ平坦ニスヘシ

第六條 新タニ開鑿セシ道路ニシテ雨雪等ノ爲メ土砂崩落溝渠ヲ填塞シ爲メニ雨水道路ニ湛へ破壊ニ至ラントスルケ所ハ須臾モ閑カス迅ニ元形ノ如ク請持丁場組合ニテ取片付ルモノトス

但組合ニテ負擔ニ難堪場合ニ於テハ欠崩ノ坪敷取調二日以内ニ郡區役所ニ届出郡區役所ハ即時縣廳ニ開申スヘシ

第七條 橋梁ノ掃除ハ土橋ハ窪ミニ土砂ヲ置キ平坦ニシ雨水滲透ヲ防キ土橋ハ塵埃ヲ掃ヒ蘚苔ヲ除キ務メテ保持ノ久シキヲ圖ルヘシ

第八條 雨雪等ノ障害ニテ急破出來請持丁場組合ニテ負擔シ難キ場合ニ於テハ戸長立會檢査ノ上其狀況速ニ縣廳ニ届出ヘシ

但通行差支ユル場合ニ於テ假道ヲ設ケ又ハ一時ノ修繕ハ受持丁場組合ニテ負擔スヘシ

第九條

第十條

第十一條 掛リ官吏巡回ノ際掃除不行届ノケ所アリト認ムルハ戸長へ通達シ速ニ着手セシムヘシ

本年甲第七
第十號ハ但
第十號加
第七號甲
第七號第
以テ第九條
ナリシ第
ナリ改シ第
十條正シ第
村制實施
減合時全條
消ト

○通 運

第十二條 掃除請持丁場標杭ハ左ノ雛形ニ倣ヒ持場境界ニ建設スヘシ



凡ソ地上長四尺程幅四五寸角位地入二尺程用材松杉ノ内

○甲第五十六號 明治十六年七月七日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡船及開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配特ニ配達人タルヲ證スノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客歲三月甲第三十九號ヲ以テ及布達置候所自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置答ニ候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求スルヲ得ニ

二寸五分

郵便

第 號
何 國
○ 何地郵便局脚夫
何ノ 誰

○明治年月日
何何 何何
郵便局 地國

○甲第六十四號 明治十六年七月二十三日

船舶ヲ所有シ海川港灣ヲ運航シテ物貨廻漕ノ業ヲ爲スモノハ其運航場所及廻漕物貨ノ賃金ヲ定メ郡區役所ヲ經縣廳ノ認可ヲ受ケ營業スヘシ

○乙第三十八號 明治十六年七月二十三日 郡區町村

今般甲第六十四號ヲ以テ海川港灣ヲ運航シ物貨廻漕ノ營業ヲ爲スモノハ其賃金ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ケヘキ旨布達候ニ付テハ是迄承認ヲ得サルモノハ速ニ可爲差出尤モ其書面ニハ船体積石噸數ヲ記載セシムヘシ且爾后賃金等ヲ變更スルハ其都度認可ヲ可爲相請此旨相達候事

○甲第七十三號 明治十六年八月二十七日

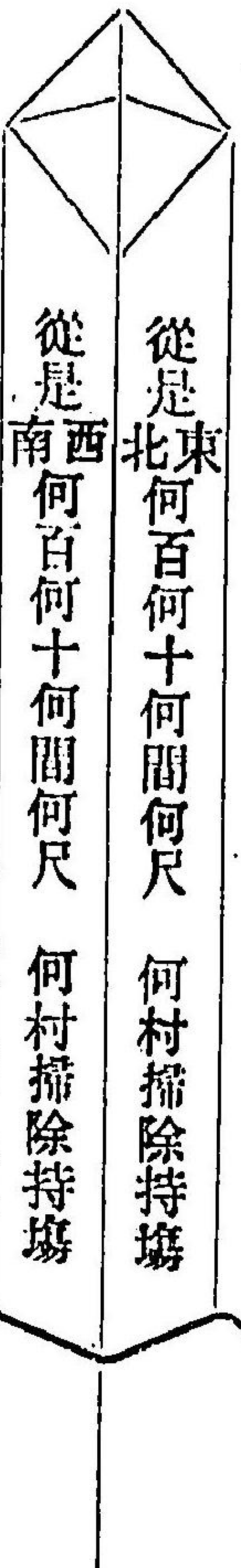
郵便物ヲ積載スル車馬ト他ノ人力車及馬車荷車等途上ニ逢フハ道ヲ郵便車馬ニ讓リ通過セシムヘシ

○甲第二十三號 明治十七年四月八日

日本形積石五十石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ鑑札ハ該船ノ艦外部後面ニ釘付スヘシ

○通運

第十二條 掃除請持丁場標杭ハ左ノ雛形ニ倣ヒ持場境界ニ建設スヘシ



凡ソ地上長四尺程幅四五寸角位地入二尺程用材松杉ノ内

○甲第五十六號 明治十六年七月七日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡船及開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配特ニ配達人タルヲ證スノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客歲三月甲第三十九號ヲ以テ及布達置候所自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置管ニ候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求スルヲ得ニ 二寸五分

理川中

第 號

何國 何地郵便局脚夫 何ノ 誰

○明治年月日 何何 何地 郵便局

○甲第六十四號

明治十六年七月二十三日

船舶ヲ所有シ海川港灣ヲ運航シテ物貨廻漕ノ業ヲ爲スモノハ其運航場所及廻漕物貨ノ賃金ヲ定メ郡區役所ヲ經縣廳ノ認可ヲ受ケ營業スヘシ 右布達候事

○乙第三十八號

明治十六年七月二十三日

郡區町村

今般甲第六十四號ヲ以テ海川港灣ヲ運航シ物貨廻漕ノ營業ヲ爲スモノハ其賃金ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘキ旨布達候ニ付テハ是迄承認ヲ得サルモノハ速ニ可爲差出尤モ其書面ニハ船体前積石噸數ヲモ記載セシムヘシ且爾后賃金等ヲ變更スルハ其都度認可ヲ可爲相請此旨相達候事

○甲第七十三號

明治十六年八月二十七日

郵便物ヲ積載スル車馬ト他ノ人力車及馬車荷車等途上ニ逢フハ道ヲ郵便車馬ニ讓リ通過セシムヘシ 右布達候事

○甲第二十三號

明治十七年四月八日

日本形積石五十石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ鑑札ハ該船ノ艙外部後面ニ釘付スヘシ 右布達候事

○通 運

○甲第五十八號

明治十八年六月三十日

客年(十二月)第三十號布告西洋形船舶檢査規則本年七月一日ヨリ施行相成候ニ付テハ明治十五年(十二月)本縣甲第百二十一號布達小形旅客源船取締規則全日ヨリ廢止ス

○丙第十九號

明治十八年六月三十日

郡區

客年(十二月)第三十號布告西洋形船舶檢査規則本年七月一日ヨリ施行相成候ニ付右施行手續並檢査細則別冊ノ通相定メレ候條西洋形船舶所有者へ告示スヘシ此旨相達候事

(別冊)

明治十八年四月農商務省第十五號達(略ス)

○乙第四十九號

明治十八年八月六日

郡區町村

郵便取扱役及其身元引受人保證人ヨリ別紙書式ノ財産調書差出候等ニ付區戶長ノ奧印ヲ請求候節ハ調査ヲ遂ケ候上奧印ヲ爲スヘシ此旨相達候事

(別紙書式)

(財産調書々式) (用紙美紙十三行野)

財産調書

(身元引受人又ハ保證人ヨリ差出)

(サシムル財産調書モ本文ニ全シ)

何縣何國何郡區何町村何番地

戶主又ハ戶主某長次男等

族籍

何 某

何國何郡區何町村

一田(畑)(宅地)何町何反何畝何歩

質入又ハ書入等ノ有無ヲ明記スヘシ

此地券面價格金何圓

此賣買價格金何圓

全

一山林(原野)全上

全上

全

全

一建家何棟

全上

此賣買價格金何圓

右私所有ニ相違無之候也

右

年月日

何 某 印

○通 逕

前書ノ通相違無之候也
縣令宛

何縣何國何郡區何町村

戸長區長

何

某印

年月日

○甲第三號

明治十九年一月十四日

貞山堀松島灣ヨリ閑上濱ニ至ルノ間通船差許シ通船假規則左ノ通相定ム

貞山堀通船假規則

第一條 運河通航ノ諸船ハ此規則ヲ遵守シ都テ工業主任者ノ指揮ヲ受ケ工事ニ妨害
ヲ爲スヘカラス

第二條 運河通航ハ工事ノ都合ニ依リ全線或ハ場所ヲ限リ一時停止スルコト有ルハ
シ

第三條 運河通航ノ諸船ハ物揚場ニアラサル場所ニ於テ貨物及人畜類ノ揚卸ヲナシ
又濫リニ碇泊スルヲ許サス

但暴風雨其他不得止事故アル時ハ碇筋五間ヲ隔テ岸側ニ沿ヒ堅ク繫留スヘシ

第四條 運河通航ノ諸船開門ヲ通過セントスル時ハ都テ看守人ノ指揮ヲ受ケ開門ヲ
距ル約百間ニシテ其駛行ヲ留メ徐々進行スヘシ

廿二年(四
月)縣令第
三十四號第
以テ改正ス
條ヲ第十五

第五條 運河通航ノ諸船若シ開門又ハ橋梁其他堤防等ヲ損リニ毀損シタルトキハ其
船長船主ヨリ其損害ニ係ル修繕費用ヲ辨償セシムヘシ
右布達候事

○縣令第四十一號 明治十九年十月二十九日

小形漁船取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

小形漁船取締規則

第一條 小形漁船ニシテ旅客ヲ登載シ航運ノ業ヲ爲サントスル者ハ左ノ明細書ニ檢
査證寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第二條 小形漁船ノ乗客取扱ノ業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出取
扱所ノ看板ニ捺印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲クヘシ

第三條 廢業移轉改名等其他明細書面ト異動ヲ生シタルルハ前二條ノ手續ニ依リ其
都度届出ヘシ

第四條 乗客ノ賃錢ハ相當ノ額ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ
受クヘシ但賃錢表ハ船内及切符賣捌所等見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第五條 航行定日發着時限及發着地寄港ノ個所等豫メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認
可ヲ受クヘシ

第六條 發着定期及發着地寄港ノ個所等臨時之ヲ變更シ又ハ代船ヲ用ルルハ其出發

○通 運